

青森学術文化振興財団・令和 2 年度助成事業

新青森駅開業 10 周年に向けた市民協働の場づくりの  
深化および情報発信の強化に関する研究・実践

成果報告書（ネット・配布版）

青森大学社会学部・櫛引素夫研究室

2021 年 2 月



## 【本報告書について】

本書は、青森学術文化振興財団の令和 2 年度助成事業「新青森駅開業 10 周年に向けた市民協働の場づくりの深化および情報発信の強化に関する研究・実践」の成果報告書です。

本事業は、高齢化と深刻な人口流出に悩む青森市、さらには青森県域において、新青森駅やその周辺をめぐる情報の収集・発信の仕組みづくりが、新たな協働の場づくりにつながり、何らかの活路につながるのでは、という問題意識に基づいて発案しました。本年度が 3 カ年事業の 2 カ年目に当たります。

初年度は、手探りの中でゼロから事業をスタートさせましたが、青森県立青森西高等学校、東日本旅客鉄道株式会社（JR 東日本）の多大な協力をいただき、さらには青森県・三内丸山遺跡センター、青森県立美術館をはじめ多くの方々のご支援のもと、予想を上回る収穫を得ることができました。

本年度は、引き続き、2020 年 12 月 4 日の東北新幹線全線開通・新青森開業 10 周年を軸に、連携・協働の深化と拡大を目指しました。

しかし、同年 1 月から世界に広まった新型コロナウイルス感染症のため、当初構想の事業の多くを断念せざるを得なくなりました。

それでも、青森西高校「おもてなし隊」や新青森駅の皆さまの奮闘を起点に、バラエティーに飛んだ活動が再起動し、気がつけば 1 年間を駆け抜けることができました。その経緯と展開、今後の展望を整理し、記録にとどめることが、本報告書の目的です。

本年度の活動は結果的に、新青森駅とその周辺に関する人・地域の情報をまとめた「ニュースレター」を配布し、Facebook 等で発信する営みにほぼ限定されました。それでも、コロナ禍にひるむことなく、感染防止に留意しながら、事業を完了できただけでも、大きな成果と考えています。

幸い、3 年目の事業実施も内定しており、事業の中括的な仕上げを構想できる状況になりました。一連の取り組みと本報告書が、青森市や青森県の将来像を考える糸口になれば幸いです。

最後に、本事業を採択していただいた青森学術文化振興財団、ならびに本事業にご協力いただいた、青森西高校、JR 東日本青森支店・新青森駅、青森県・三内丸山遺跡センター、青森県立美術館をはじめ、すべての皆さまに心より御礼申し上げます。

（取材・記事掲載や配布にご協力下さった皆さまのお名前は本文に記しました）

2021 年 2 月  
青森大学社会学部 榎引 素夫

## 目 次

1. 本事業の趣旨と背景 .....	1
2. 本事業の申請内容 .....	2
3. 本事業の展開 .....	5
4. 事業の総括と展望 .....	7

### ★資料

ニュースター（第 11 号～第 20 号・開業 10 周年記念号外） .....	13
日本地理学会・2020 年秋季学術大会発表資料 .....	39

## 1. 本事業の趣旨と背景

本事業は、青森学術文化振興財団の令和 2 年度助成により、「新青森駅開業 10 周年に向けた市民協働の場づくりの深化および情報発信の強化に関する研究・実践」として実施した。平成 31 年度助成「新青森駅と周辺の情報発信を核とした新幹線駅活用および市民協働の場づくりの研究・実践」に続く、「3 カ年事業」の 2 年目と位置付けられる。

本事業の狙いは、この名称が示す通りである。具体的には、新青森駅およびその周辺地域、さらには青森駅的话题を題材とした「ニュースレター」を毎月発行し、情報や意識を共有することによる、新たな連携・協働の回路をつくることである。併せて、駅利用者や地域の人々に対し、既存の情報源とは別の角度から、駅や地域に関する情報を提供し、新たな地域アイデンティティや地域ブランドの下地づくりを目指す。活動の軸は、青森大学と青森県立青森西高等学校の包括的連携協定に基づく高大連携事業である。

本事業および「3 カ年事業」は、大きくみて、筆者が目指す「人口減少社会の再デザイン」の一環として構想した（榎引、2020a）。

青森市は最盛期の 2005 年 1 月、32 万人近い人口を擁していた。それからわずか 15 年余、2021 年 2 月 1 日現在の人口は約 27 万 8,000 人まで減り、全国の県庁所在地でワースト級の人口減少率となっている。高齢化率は 31.5%と、県庁所在地であるにもかかわらず全国平均（2020 年 9 月現在で 28.7%。総務省）を上回る。問題は、社会減、つまり人口流出による、特に若い世代の減少の激しさである。

そのような状況下、東北新幹線は 2020 年 12 月 4 日、全線開通・新青森開業から 10 周年を迎えた。青森市の鉄道ターミナルは、1891（明治 24）年の日本鉄道の開業から長く、市中心部の青森駅だったが、2010 年 12 月 4 日の東北新幹線全線開通に伴い、新青森駅が新たな「顔」となった。

市民の間には、新幹線駅の郊外移転に対する不満が根強く、加えて、2015 年度の北海道新幹線開業に伴う「通過駅化」に対する不安も大きかった。さらに、新青森駅前の利用が進まず、更地が広がっている状況への批判や不満が絶えなかった。

それでも、区画整理事業に伴う 18 区画の商業用地（一般保留地）のうち 17 区画が 2019 年までに売れた。2020 年 3 月には駅前にビジネスホテル・東横インがオープンし、他の区画でもレストラン・宴会場や障害者生活介護事業所の建設工事が進んでいる。

ただし、新青森駅周辺の開発が、どのようなまちづくりにつながるのかという議論は、まだ十分とは言いがたい。逆に、商業施設の有無とは関係なく、旅行者や駅利用者に対する地元のホスピタリティの希薄さを指摘する声もある（榎引、2020b）。

新青森駅は青森市の都市政策において「コンパクト・プラス・ネットワーク」の 4 極の一つと位置付けられてきた。上記のような経緯を踏まえ、新幹線という高速交通体系は人口減少の抑制、あるいは人口減少社会の克服に、どのような役割を果たし得るのか。また、交通の結節点としての新幹線駅は、まちづくりにどのような役割を果たし得るのか。その問いが、本事業を発案した起点である。詳細は、「3 カ年事業」の初年度に刊行した報告書（榎引、2020a）を参照されたい。

2020 年頭から世界に広がった新型コロナウイルス感染症（COVID-19）のため、人の移動が停滞し、ニューズレターで扱ってきた諸活動も一時、ほとんど中断を余儀なくされた。COVID-19 が小康状態の時期は、新青森駅と周辺にある程度の活況が戻ったが、本報告書の刊行時点で収束は見通せず、駅前に進出予定だったホテルの開業が「時期未定」となった事例もある。

本事業も、予定していた「人が集まる事業」「外へ出かける事業」のほとんどは中止に至った。結果的には、当初計画の「調査研究」に該当する部分の多くは実施できなかった。それでも、中心となってきた青森西高校「おもてなし隊」の活動は完全に停滞することはなかった。ニューズレターの刊行も中断を挟んで復活し、コロナ禍の中で、曲がりなりにも事業を実施し、完走しつつあること自体が、評価される場面もあった。

本事業の背景と本年度の特質をひと言で言えば「世界的な曲がり角における、新幹線駅を拠点とした地域活動継続の記録」と表現できよう。

「3 カ年事業」は当初から、新青森駅を中心に活動しつつ、青森駅の話も取り上げて展開していく方向性だった。その青森駅は 60 年余りの歴史を持つ第 4 代の現駅舎が 2021 年 3 月で役割を終え、同月末には新たな橋上駅と、併設される東西自由通路の使用が始まる。現駅舎の跡地には 10 階建ての駅ビルが建設され、健康増進を特長とするホテル、青森市民美術展示館、青森県による「北海道・北東北の縄文遺跡群」の情報発信拠点などが入居予定である。「3 カ年事業」の 3 年目は、当初の構想に従い、青森駅とその周辺に関する動きにも比重を置くことになる。

#### ▽文献

櫛引素夫（2020a）青森学術文化振興財団・平成 31 年度助成事業「新青森駅と周辺の情報発信を核とした新幹線駅活用および市民協働の場づくりの研究・実践」成果報告書

櫛引素夫（2020b）『新幹線は地域をどう変えるのか』、古今書院

## 2. 本事業の申請内容

本事業の申請時点（2019 年 11 月）に想定した、青森県内における本事業のニーズおよび趣旨について、事業申請書の記述を以下に転載する。

#### ▽青森県内におけるニーズ

◎新青森駅は 2020 年 12 月 4 日、開業から 10 周年を迎える。区画整理に伴い販売された保留地が売れ残り、長く「何もない駅」の名に甘んじてきたが、2019 年 11 月までにビジネスホテルの建設が完了する一方、18 区画中 17 区画が売れ、年度内にも完売する見通しと報じられている。

◎申請者は 2018 年度、「青森市・青森県のゲートウェイの一つである新青森駅を対象に、青森市のまちづくりと駅の活用をめぐる課題と可能性を調査・研究する。併せて、全市的な関心を喚起する目的を兼ねて、次世代を担う学生スタッフを交え、新青森駅を舞台とした情報発信と住民協働の場づくりを展開する」ことを目指して 3 カ年の取り組みを企画した。その初年度の事業として「新青森駅と周辺の

情報発信を核とした新幹線駅活用および市民協働の場づくりの研究・実践事業」を青森学術文化振興財団・平成 31 年度助成事業に申請、採択された。

- ◎同事業はニュースレター「はっしん！ 新青森」の発行を軸とし、青森西高校、JR 東日本、三内丸山遺跡センター、青森県立美術館などの協力を得て、申請時点で実施中である。ほぼ想定に沿って多くの協働のシーズとニーズが見いだされ、実現に至っている。ニュースレターの発行は多くの関係者に好意的に受け止められ、2020 年度の発行継続についても、理解と賛同を得られている。
  - ◎2019 年度事業の一環として、青森西高校・おもてなし隊を主な対象に実施した「はっしん！ 新青森」おもてなしフォーラムは、新青森駅、国土交通省青森運輸支局、青森県庁、青森市教委、青函フェリー、住民団体「三内を美しく元気する会」など、案内を出した関係者の大半が参加し、さらには高校生とのワークショップで積極的に発言するなど、これまでになかったネットワーク創出のきっかけとなった。
  - ◎加えて、北陸新幹線沿線の上越妙高駅（新潟県上越市）のエリアで、姉妹紙となるニュースレターの刊行が予定され、新幹線をめぐる地域活動が県外に波及するなど、想定外の成果も得られている。
  - ◎今後、新青森駅前の活用が本格化する一方、このエリアは、青森市のゲートウェイにふさわしい「まち」になるか、それとも単なる「建造物が並ぶ駅前」になるか、大きな岐路にさしかかる。
- ◎以上のような状況を分析・検討すると、青森県内には次のようなニーズが存在すると考えられる。

- ①開業 10 周年の節目を意識し、日々、姿を変えていく新青森駅前の姿を記録、保存するとともに、市民、県民に情報を共有する取り組み
- ②新青森駅を青森県および青森市のゲートウェイとして活用するための議論・検討の基礎資料
- ③新青森駅および東北・北海道新幹線の活用機運を高め、利用者や市民に有意義かつ快適な活用法を提示し、実践する取り組み
- ④応募者の研究の蓄積を生かし、県内外の新幹線駅とのネットワークを構築・強化して、新青森駅の活用に生かす取り組み
- ⑤以上の活動を、高校生や大学生のトレーニングを兼ねて実施する取り組み

#### ▽事業の趣旨

- ◎上記の通り、本事業は 2019 年度、青森大学による、大きく 3 カ年にわたる教育・研究・社会貢献活動の一環として企画され、始動した。当初は、2019 年度は新青森駅を拠点とし、2020 年度は青森駅に軸足を移して、2021 年度に青森駅－新青森駅の面的な展開を想定していた。しかし、以下のような理由で、引き続き、新青森駅を拠点として活動を深化・拡大させることとした。

- ①新青森駅が開業 10 周年を迎えることがあらためて話題に上り、節目の年として強く意識されていることが明らかになった
- ②連携先である青森西高校の「おもてなし隊」の活動が多岐にわたる上、非常に活発であり、引き続き新たな協働の軸とすることが好適と判断された

- ③新青森駅長が 2019 年度の途中で異動するなど、協働の枠組みは変わらないながらも、リセットを余儀なくされる場面があり、さらなる基盤の強化のニーズが発生した
- ④JR 東日本の要望で、当初から、青森駅を取材対象に含めたため、3 年目に想定していた面的展開に初年度から踏み込んだ
- ⑤青森駅の工事が 2020 年度に本格化し、年度末にリニューアルするため、青森駅を基盤とする協働体制の構築は、2021 年度以降が望ましいことが判明した

◎ 本事業の趣旨は、一連の事業としては 2 年目にふさわしい協働の深化、多様化を目指しつつ、新たに発生した「新青森駅前の変化を記録し、伝え、地域研究の基礎資料を残す」という事業を進めることである。もちろん、2019 年度に設定した「青森市・青森県のゲートウェイの一つである新青森駅を対象に、青森市のまちづくりと駅の活用をめぐる課題と可能性を調査・研究する。併せて、全市的な関心を喚起する目的を兼ねて、次世代を担う学生スタッフを交え、新青森駅を舞台とした情報発信と住民協働の場づくりを展開する」という目的も、着実に進展させる。

◎ なお、2019 年度の事業は、進捗状況を同年秋の日本地理学会（新潟大学）で発表したほか、申請者が執筆する東洋経済オンラインの連載記事「新幹線は街をどう変えるのか」でも紹介し、多くの反響があった（2019 年 10 月 19 日「郊外の「ポツンと新幹線駅」、集客をどう図るか」）。関心を持った研究者から共同研究の打診があり、この研究者との協働を想定して、県内外の郊外立地型新幹線駅に関するフォーラムを開催する。初年度に想定していた道南や青森県内の新幹線駅との連携は、まだ取り組みを深化させる余地があるため、このフォーラムを通じ、多様な連携策を検討する。

【参考】当初、想定していた 3 カ年計画は、以下の通りである。

- ①新青森駅を舞台とした情報発信と住民協働の場づくりの調査研究・実践（2019 年度）
- ②改築後の青森駅の活用および中心市街地の協働の場づくりに向けた調査研究・実践（2020 年度）
- ③新青森駅と青森駅を連携させたまちづくりと観光振興、住民協働の調査研究・実践（2021 年度）

#### ▽事業実施期間

2020 年 4 月 1 日 ～ 2021 年 2 月 28 日

#### ▽事業実施地域

青森市、今別町、七戸町、八戸市、木古内町（北海道）、函館市、上越市（新潟県）



### 3. 本事業の展開

#### 1) 経緯と総括

本事業は、青森大学・櫛引研究室、ならびに青森大学と連携協定を結んでいる青森県立青森西高等学校とのパートナーシップを軸に、「高大連携事業」をベースとして、新青森（駅）ニュースレター「はっしん！ 新青森」の制作・発行が主体である。具体的な事業としては、新青森駅に関する情報、特に開業 10 周年をめぐる活動を重点的に取り上げた。

2020 年 2 月から COVID-19 の影響が国内外に出始め、4 月にはこれまで配布に協力を得てきた観光施設等が軒並み閉鎖になるなど、取材も配布も困難な状況になった。青森西高校や新青森駅の活動もほとんどなくなった。このため、新年度の第 1 号（通算第 11 号）となる予定だった 4 月 10 日号は、印刷したが配布を断念した。美術館の閉鎖に伴い中止になった展示会などを扱っていたため、後日の配布も不可能だった。結局、4 月と 5 月はニュースレターを休刊した。

それでも、6 月に再び通算第 11 号を復活させ、以後、月 1 回のペースで刊行を続けた。12 月 4 日の東北新幹線全線開通・新青森開業 10 周年に合わせて、セレモニーが行われた 12 月 5 日には号外を発行した。

事業期間は 2 月 28 日で終了したため、3 月 10 日号は、事業予算外の自己負担で制作、発行予定である。

ニュースレターの作成・配布に加えて、COVID-19 対策として、「オンライン版」の発行、つまりニュースレターに収録した記事・画像を、Facebook ページのコンテンツとして再発信した。また、独自コンテンツも配信した。さらに、前年度に続いて Instagram での画像配信も継続した。

活動の学会等への報告は、当初は次年度以降を予定していたが、環境が整ったことから、コロナ禍を克服して発行を継続した経緯を、日本地理学会秋季学術大会（オンライン開催）でポスター報告した。

結果的には、記事の内容は「コロナ禍に負けない」青森西高校の生徒たちや新青森駅の人々の活動が柱となった。次いで、駅に近い青森県・三内丸山遺跡センター、青森県立美術館の催しや印象についての記録が柱となった。

なお、本年度から青森県観光物産館アスパム、青森市男女共同参画プラザ・カダール、青森市市民協働推進課、東横イン新青森駅東口でも配布を開始した。特筆すべきは、青森市民図書館歴史資料室への提供を始めたことである。創刊号に遡って寄贈したことから、郷土資料としても保存・活用される道が開けた。

他方、当初、予定していた以下の事業は中止を余儀なくされた。

- ・上越妙高エリア（新潟県西部）の調査および北信越ラボ（株式会社北信越地域資源研究所）との共同研究・事業
- ・新青森駅の活用法に関連する七戸十和田駅、八戸駅、木古内駅、新函館北斗駅など県内外の郊外型の新幹線駅の在り方に関する調査研究
- ・これらの結果を公表する新青森駅フォーラムの開催
- ・青森西高校との連携によるおもてなしフォーラムの開催

このため、事業実施地域は、当初予定の青森市、今別町、七戸町、八戸市、木古内町（北海道）、函館市、上越市（新潟県）のうち、青森市に限定された。

## 2) ニュースレターの発行

ニュースレターの印刷・発行状況は以下の通りである。

- ・第 11 号（配布断念、印刷のみ）：4 月 10 日
- ・第 11 号復刊版：6 月 10 日（増刷あり）
- ・第 12 号：7 月 10 日
- ・第 13 号：8 月 10 日
- ・第 14 号：9 月 10 日
- ・第 15 号：10 月 10 日
- ・第 16 号：11 月 10 日
- ・号外：12 月 5 日号（増刷あり）
- ・第 17 号：12 月 10 日
- ・第 18 号：1 月 10 日
- ・第 19 号：2 月 10 日
- ※第 20 号：3 月 10 日（事業期間外・自己負担で発行）

☆取材にご協力いただいた、主な組織・個人（順不同・敬称略）

青森西高校、JR 東日本（新青森駅、青森支店、盛岡支社）、三内丸山遺跡センター、青森県立美術館、外ヶ浜町、今別町、特定非営利活動法人あおり若者プロジェクト・クリエイト（久保田圭祐理事長）、青森県花のくにづくり推進協議会、佐々木康浩（株式会社花寿樹）、佐藤真奈美（東横イン新青森駅東口）、成田夏実（れすとらん 五千年の星）

☆第 19 号刊行時点での主な配布先・配布協力者（順不同・敬称略）

青森県立青森西高校、JR 東日本新青森駅・青森支店・青森駅、三内丸山遺跡センター、青森県立美術館、青森市教育委員会文化財課、青森市交流推進課・市民協働推進課、青森市男女共同参画プラザ・カダール、青森市民図書館歴史資料室、青森県交通政策課・観光企画課・誘客推進課、青森県総合社会教育センター、青森県観光連盟、青森県観光物産館アスパム、国道交通省青森運輸支局、財務省青森財務事務所、青森県政記者会加盟社（17 社）、青い森鉄道、青函フェリー青森営業所、東横イン新青森駅東口、あおり北のまほろば歴史館、株式会社あおり創生パートナーズ、NPO あおり～な、三内を美しく元気にする会、カフェ・デ・ジターヌ

## 3) Facebook ページの運営

前年度に続き、Facebook ページを運営した。コロナ禍でニュースレターの取材・発行を中断せざるを

得なかった時期は、実質的に唯一の情報発信源となったことで、結果的に軸足をオンラインにシフトする形になった。独自コンテンツの投稿を強化した。さらに、いったん発行したニュースレターの内容をあらためて投稿する試みを始めた。毎週、延べ 3,000 件程度、1 件あたりでは最多で 1,800 件の閲覧がある。全体的に、前年度に比べて閲覧数が伸びている。

また、2020 年秋に JR 東日本盛岡支社、外ヶ浜町、今別町と青森大学・櫛引研究室が JR 津軽線と沿線の振興を目的に開始した「JR 津軽線プロジェクト」との連携も始まっており、同プロジェクトの紹介記事なども掲載している。

#### 4) Instagram での発信

2020 年 6 月から 12 月までの期間を中心に、週 1 回、1～3 枚程度の画像を投稿した。

ただし、Instagram アカウントは開設当初から、学生や高校生による運営への移行を視野に入れていたため、あえて抑制的に使用していた。#shinaomori、#aomoriuniversity、#aomorinishi といったハッシュタグを入れる以外は、説明文も付けず、淡々と、駅構内のイベントや掲示物、青森西高校華道部による生け花の画像を投稿した。

本格的な活用は次年度以降の課題である。

#### 5) 日本地理学会での発表

上記の通り、日本地理学会の 2020 年秋季学術大会（オンライン開催）で、前年度に続き、取り組みを報告した（ポスター発表、2020 年 11 月 4 日～17 日）題名は「新幹線駅エリアの『メディア化』が持つ地理学的な可能性と課題（続報）—コロナ禍の影響と克服の試み」である。

質疑では、コロナ禍の中で事業を持続させた経緯を評価する声があった。

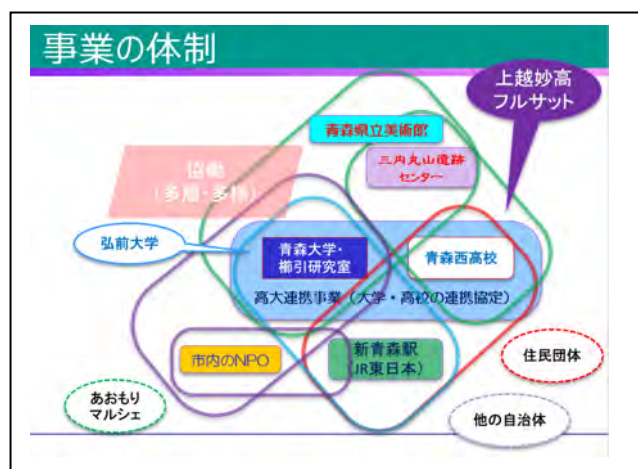
発表要旨（投稿時点のもの）ならびに提出したポスターは巻末に資料として収録してある。

### 4. 事業の総括と展望

「3カ年事業」がスタートした 2019 年時点で、目指した事業実施体制と理念をまとめたのが右の図である（日本地理学会・2019 年度秋季学術大会資料の抜粋）。

1 年目は、この体制づくりの基盤をつくることができ、2 年目は、完成度を高めていくことが目標だった。しかし、COVID-19 によって、構築途上だった体制を死守できなかったが、本年度の成果と言わざるを得ない。

前述のように、対外的な調査研究活動



はすべて見送った。初年度は実現した弘前大学生の参画、上越妙高駅との共同企画も困難だった。また、今年目標の一つだった高校生・大学生のトレーニングもできなかった。

それでも、重ねて記せば、コロナ禍という世界の歴史に残る異変の中で、「立ち止まらず、歩き続けるにはどうしたらよいか」を考え続け、曲がりなりにも活動を継続できた。当初目的とは異なるとはいえ、これはこれで、一定の成果だったと考える。

2020年の3月から5月にかけては、COVID-19拡大防止の観点から、新青森駅に足を運ぶことすらためらわれる日が続いた。足を向けても、人影がほぼ消えた駅の構内の記憶は今も生々しい（写真右。2020年5月、筆者撮影）。その後、夏から秋にかけては活況が戻ったものの、駐車場はがらがらの状態が続き、今も満車になる場面はほぼ見られない。2019年までは、駐車場に入りきれず列車に遅れる人が続出していた状況を考えると、その落差は計り知れない。



今も、新青森駅駐車場が満車になる場面は目にできていない。しかし、コロナ禍との向き合い方が社会に浸透し、社会に不可欠な人の動きが維持され、何より、それを支える人々が、大きく健康を損なうことなく活動している場面を再び目にするのができるのは、本事業の成果とは別に、感慨深いものがある。

前述の、本事業の「ニーズ」への対応状況を自己評価すると、以下の通りになる。

- ①開業 10 周年の節目を意識し、日々、姿を変えていく新青森駅前の姿を記録、保存するとともに、市民、県民に情報を共有する取り組み  
⇒ 一定の成果を取めた
- ②新青森駅を青森県および青森市のゲートウェイとして活用するための議論・検討の基礎資料づくり  
⇒ 現時点では判断が困難。議論・検討の場が、事業期間内につくれなかったことによる。ただし、青森市民図書館歴史資料室にニュースレターが納められたほか、本報告書を作成・公開することにより、一定の基礎資料づくりはできたといえる
- ③新青森駅および東北・北海道新幹線の活用機運を高め、利用者や市民に有意義かつ快適な活用法を提示し、実践する取り組み  
⇒ コロナ禍により、実現が困難だった
- ④応募者の研究の蓄積を生かし、県内外の新幹線駅とのネットワークを構築・強化して、新青森駅の活用に生かす取り組み  
⇒ コロナ禍により、実現が困難だった。ただし、県内外の新幹線駅にかかわる人々との交流は継続しており、今後の回復・強化を期している
- ⑤以上の活動を、高校生や大学生のトレーニングを兼ねて実施する取り組み  
⇒ コロナ禍により、実現が困難だった。コロナ禍の動向をみながら、今後の実現を期す

前述の通り、本事業は 2021 年度、最終となる 3 年目の事業に接続することが内定している。ワクチン接種が始まる中、それでもコロナ禍の収束時期は見通せず、構想がどこまで実現できるか、本報告書の執筆時点では予断を許さない。

他方、この 1 年で、コロナ禍の中でもさまざまな活動を継続し、特にオンライン環境で進展させる試みは、地球規模で飛躍的に増加・拡大した。さらには、先述の「JR 津軽線プロジェクト」など、青森大学が進める他の活動との連携も緒に就いている。このような環境をポジティブにとらえ、「コロナ時代」に適合するだけでなく、オンライン社会の進展を適切に採り入れた、「新たな協働の姿」を追求する必要性を感じる。

世界的な社会・経済・文化の転換点に立っていることを自覚し、「過去の延長戦上ではない未来」を想定しながら、新年度も柔軟に、粘り強く、「新幹線駅を拠点とする新たな協働の姿」を探り、実践を続けていきたい。



ニュースレター





# はっしん! 新青森



青森県立青森西高等学校  
Aomori Prefectural Aomori Nishi Senior High School



青森大学  
AOMORI UNIVERSITY

青森大学・青森西高等学校  
高大連携事業  
協力：JR 東日本新青森駅  
〔青森学術文化振興財団助成事業〕



## ALFA-X が走行試験

### 目標は最高時速 360km 運転 北海道新幹線にも乗り入れ

JR 東日本が「次世代新幹線」開発のために製造した試験車両「ALFA-X」(アルファエックス)が仙台-新青森間を中心に走行試験を実施しています。2020年2月には初めて北海道新幹線区間にも乗り入れ、深夜の新青森駅ホームで、その姿をじっくり見ることができました。2022年3月まで試験走行を重ね、最高時速 360 km 運転の実現を目指します。

2月25日午後11時すぎ、新青森駅14番ホームに、銀色の「ALFA-X」が滑り込んできました。東京方面の先頭・1号車と新函館北斗方面の先頭・10号車は形状が異なり、いずれも細長い「鼻」が特徴的です。

停車中は多くの乗務員らがホームで打ち合わせなどを行っていました。駅はまだ営業時間中とあって、何人もの鉄道ファンが待ち受け、鈍く光る10両編成の車体を撮影する姿が見られました。

JR 東日本のリリースによると、「ALFA-X」の正式名称は「E956形式新幹線電車」です。愛称の「ALFA-X」は、実はもっと細かい「Advanced Labs for Frontline Activity in rail eXperimentation」=先端の実験を行うための先進的な試験室(車)=の頭文字

などを取った呼び名です。

新幹線車両1両の長さは25m、「はやぶさ」に使われているE5系の「鼻」が約15mであるのに対して、「ALFA-X」の1号車は約16m、10号車は約22mと、細長さがより際立ちます。

1号車はE5系と同等の車内空間を確保しているのに対し、10号車はトンネル突入時に騒音を発生させる「圧力波」を抑える形を追求しており、形状による効果の違いを確かめます。

※画像はいずれも2020年2月25日午後11時すぎに撮影。左上が新函館北斗方面の10号車で、「鼻」が約22mある。右は東京方面の1号車で、同じく約16mの長さ。



## 地震対策、騒音対策...



## 多様な項目をテスト

「ALFA-X」(アルファエックス)の試験走行の目的は、「速く走ること」だけではありません。

JR 東日本のプレスリリースによると、地震時により早く止まれるよう、屋根に取り付けた「空力抵抗板ユニット」や、車両を脱線しにくくする「地震対策ダンパ」、着雪しにくい車体構造、低騒音のパンタグラフ(写真

左上)、走行時の揺れを抑える性能など、多岐にわたる項目についてチェックします。

窓の有無や大きさや客室の環境や車体構造の関係を調べるため、車両によって窓の大きさがまちまちで、ほとんど窓のない車両もあります。「はやぶさ」に使われているE5系では10号車に設定されている「グラン

クラス」のマークは、「ALFA-X」8号車についています(写真中上)。グリーン車のマークはE5系と同じ9号車です(写真右上)。

車体には「ALFA-X」のロゴが、1号車(写真左下)、窓がほとんどない5号車(写真中下)、9号車(写真右下)にデザインされています。



## 三内丸山架道橋 遺跡見下ろす異色のデザイン 東北新幹線 景観に配慮

東北新幹線・新青森駅から約1.5km南方に、「三内丸山架道橋」があります。その名の通り、三内丸山遺跡を見下ろす形で架かり、長さ450m、高さ約40mの三つの「主塔」から斜めに張り出した鋼材が橋を支える、「エクストラードスド橋」と呼ばれる構造です。

一度見たら忘れられない特徴的な外観は、実は三内丸山遺跡一帯の景観への配慮から採り入れられました。遺跡から橋が目立たないよう、主塔の高さを抑える一方、付近を流れる沖館川などとの位置関係から、主塔の間隔を長く取る必要がありました。このため、主塔と主塔の間が150mと、新幹線のエクストラードスド橋の中では最も長くなっています。

三内丸山架道橋は2008年度、優れた橋りょう構造物などに贈られる「土木学会田中賞」を受賞しています。(参考:鉄道・運輸機構、錢高組などのホームページ。画像上は2020年4月撮影。画像下は建設中の三内丸山架道橋、2007年10月撮影)

## 発行見送り



※「はっしん! 新青森」第10号でご紹介した三内丸山遺跡センターの企画展「縄文マジカル」と関連イベント等は中止となりました。新しい情報は随時、「はっしん! 新青森」Facebookページでお知らせします。

## 「春」を刻む 作品紹介

志功、ダリ、成田亨ら

青森県立美術館

青森県立美術館は2020年のコレクション展第1弾として7月12日(日)まで、「春」をテーマに収蔵作品を紹介しています。

油絵画家として出発した棟方志功が、版画に惹かれて制作を始めた初期の作品、「ウルトラマン」「ウルトラセブン」のヒーローや怪獣をデザインした成田亨によるウルトラ怪獣の原画、シュルレアリスムを代表するスペイン芸術家ダリの版画集《シュルレアリスムの思い出》に収められた12枚などを紹介します。

このほか、教育版画の普及につとめた教育者・大田耕士(1909-1998)が集め、五所川原市教育委員会が所蔵する県内各地の小中学生の版画から、花や生き物をモチーフにした作品を展示します。

★4月18日から青森県立美術館で開催予定だった企画展「富野由悠季の世界」は延期となりました。

見学時間 9:00~17:00(入場は開館の30分前まで)  
休館日 毎月第4月曜日(祝日の場合は翌日)、12月30日~1月1日  
観覧料 一般410円(330円)/高校・大学生等200円(160円)/中学生以下無料  
※( )内は20名以上の団体料金  
※特別展は別料金、展示内容により変更する場合があります。  
※個人観覧者は、青森県立美術館のチケット表示で割引特典あり。  
(詳しくは各施設のチケットカウンターまでお問合せください。)

お問合せ 〒038-0031 青森市三内丸山305  
TEL.017-766-8282 / FAX.017-766-2365  
URL https://sannaimaruyama.pref.aomori.jp

三内丸山遺跡センター

縄文 → 芸術  
三内丸山遺跡センター 青森県立美術館

青森県立美術館

開館時間 10月~5月/9:30~17:00(入場は16:30まで)  
休館日 毎月第2、第4月曜日(祝日の場合は翌日)及び年末年始  
※企画展開催時、展示替えにより変更する場合があります。  
観覧料 一般510円(410円)/高校・大学生300円(240円)/小学生・中学生100円(80円)  
※( )内は20名以上の団体料金  
※企画展は別料金、展示内容により変更する場合があります。  
※個人観覧者は、三内丸山遺跡センターのチケット表示で割引特典あり。  
(詳しくは各施設のチケットカウンターまでお問合せください。)

お問合せ 〒038-0021 青森市安田字近野185  
TEL.017-783-3000 / FAX.017-783-5244  
URL http://www.aomori-museum.jp

新青森駅 → 三内丸山遺跡センター: 循環バス「ねぶたん号」(東口) 約20分・300円、タクシー(南口) 約10分・1,000円前後、徒歩約30分  
→ 青森県立美術館: 「ねぶたん号」(東口) 約10分・300円、タクシー(南口) 約12分・1,200円前後、徒歩約40分

## 2019年度の活動アルバムから 青森西高校「おもてなし隊」がゆく⑪

青森県立青森西高等学校の「おもてなし隊」は、2019年度を駆け抜けました。

12月17日には、台湾・花蓮市から修学旅行で青森県を訪れた慈濟(じざい)大学付属高級中学の生徒22人と交流を深めました(写真下段3枚)。出迎えと歓迎



セレモニーに続いて、青森の文化体験として郷土料理「けの汁」とだし巻き卵、おにぎりを一緒に作り、楽しく語りながら味わいました。

12月22日には、青森市の学生団体「Lesta」(レスタ)が同市の東奥日報新町ビルで開催したワールドカフェに、約50人が参加しました(写真左)。「こんな人になりたい」「暮らしの中でできる地球温暖化対策」「人口減少にどう立ち向かうか」といったテーマをめくり、大学生や社会人と盛んに意見交換していました。

### ★すべてに全力、新青森駅10周年へ

木村明日香さん(3年生)の話 今年3年目となる「おもてなし隊」の活動は、すべてに全力を尽くしていきたいと思っています。

今年は、10周年を迎える新青森駅での活動を、昨年

よりも積極的に行っていきたいです。普段お世話になっている駅へ感謝の気持ちを伝えることはもちろん、私たち高校生が記念の年を盛り上げていきたい。

これまでの活動をさらにパワーアップしていけるように、自分たちができることを精一杯やり抜きたいと思っています。

そして、「おもてなし隊」として活動する全員が、青森を訪れる方々に喜んでいただけるおもてなしができるようにしてほしいです。

最後の年になりますが、どの場所でもおもてなし活動を盛り上げていけるように、青森を楽しんでいたげるように頑張ります。



Facebook ページ Instagram アカウン

<ネット情報> Facebook ページと Instagram アカウンを開設し、独自の記事・情報を掲載しています。ご意見をお寄せ下さい。また、PDF版を青森西高校ホームページ

ムページ (<http://www.aomorinishi-h.asn.ed.jp/>)に掲載しています。いずれも、右側のQRコードからご覧いただけます。

<お知らせ> このニュースレターは、青森大学社会学部・楡引研究室が企画・制作し、文責を負っています。お問い合わせ、ご意見等は下記連絡先へお願いします。

〒030-0943 青森市幸畑2-3-1 青森大学社会学部  
楡引素夫 電話 017-738-2001 内線 731

FB ページ Instagram

青森西高校 ホームページ



# はっしん! 新青森



青森県立青森西高等学校  
Aomori Prefectural Aomori Seisei High School



青森大学  
AOMORI UNIVERSITY

青森大学・青森西高等学校  
高大連携事業  
協力：JR 東日本新青森駅  
〔青森学術文化振興財団助成事業〕

## 青森西高校「おもてなし隊」がゆく⑪

### 新青森駅にアマビエ・ポスター コロナ退散、駅員の無事祈念

2019年度の青森県「おもてなしアワード 2019」県知事賞（最優秀賞）に輝いた県立青森西高校「おもてなし隊」が5月29日、疫病退散にちなむ言い伝えがある「アマビエ」をあしらったポスター2枚を作成、JR 東日本・新青森駅の自由通路に張り出しました。

## 「10周年」カウントダウン企画第1弾

ポスターは、手のひらに乗るサイズの、アマビエをかたどった付せん紙状のメモ300枚を集めて作りました。青森西高校の1年生全員と「おもてなし隊」メンバーが「コロナが消えますように」「駅長さんがコロナにかかりませんように」といったメッセージをメモに記しています。生徒が描いた、ねぶた絵風のアマビエイラストも添えられました。

2枚のポスターは、新青森駅に勤務する中田真由さんが制作した、マスク着用などを呼びかけるポスター4枚と並んで掲示されました。

張り出し時のセレモニーでは、3年の木村明日香さん

と2年の伊藤源太さんがあいさつし、参加した55人の隊員が、拍手で駅員の皆さんをねぎらいました。

◆ ◆  
新青森駅は今年12月4日、新幹線開業10周年を迎えます。同駅や青森西高校は、さまざまな活動を企画していましたが、新型コロナウイルスの影響で中断を余儀なくされていました。

「おもてなし隊」にとって、このイベントは、年度が開けて初めての本格的な活動となりました。また、新青森駅開業10周年のカウントダウン企画の第一弾ともなりました。



## 新入生を交えて 布マスクを製作

## ねぶたの浴衣で マスク作り動画

青森西高校「おもてなし隊」の2020年度の活動は、布マスクの製作から始まりました。

4月上旬、入学したばかりの1年生を交えた家庭クラブ委員会やボランティア委員会を中心となり、製作を開始。家族のため、またボランティア活動として地域の施設に寄付するため、ミシンや針を使って懸命に、週2回のペースで作りました。5月には市内の2保育園などにできあがったマスクを寄贈しました。

このほか、「ねぶたの浴衣でマスクを作ろう!」と題した動画を作成、学校のホームページに掲載するなど、さまざまな制約の下でも多彩な活動を展開しました。

## ニュースレター創刊1周年 そして新青森10周年へ

当ニュースレターは2019年6月、青森西高校と青森大学の「高大連携協定」を軸に、「JR新青森駅を核とした地域づくり、新たな協働づくり」を目指し、青森学術文化振興財団の助成を得て誕生しました。そして、皆さまのお力添えをいただき、今年6月で創刊1周年を迎えることができました。

取材や紙面づくりにご協力をいただいたJR新青森駅と青森支店、青森県・三内丸山遺跡センター、青

森県立美術館の皆さまをはじめ、配布にご協力いただいた青森市交流推進課・青森市観光交流情報センター・あおもり観光情報センター、あおもり北のまほろば歴史館、青函フェリーをはじめ、多くの皆さまに心より感謝申し上げます。

記念すべき10周年の2020年は、新型コロナウイルスによる波乱の幕開けとなりました。当ニュースレターも、新年度の第1号、通算第11号となる4月10日号

が完成していましたが、緊急事態宣言を受けて配布を見送り、この号は「幻の紙面」となりました。今号は、紙面をほとんど組み直した新生・第11号です。

大きく世の中が変わろうとする「ウィズ・コロナ」の時代、東北・北海道新幹線が地域とどう関わっていくのか、今後の展開が注目されます。引き続き、さまざまな動きを当ニュースレターで伝えて参ります。どうぞ、よろしく願い申し上げます。(柳引素夫)

## 三内丸山遺跡



ようこそ  
特別史跡 三内丸山遺跡へ  
Welcome to Special Maruyama Archaeological Site

## コロナ禍を克服 通常営業再開

新型コロナウイルスの感染拡大を防ぐため、4月11日から臨時休館していた、青森市の三内丸山遺跡センター、青森県立美術館はともに、5月21日に再開しました。それぞれ、入り口で検温し、手指の消毒への協力、咳エチケットやマスク着用、他の来場者と適切な距離を取るといった対応を呼びかけて、安全かつ快適に観賞できる環境づくりに努めています。

三内丸山遺跡センターは休止していたボランティアガイドを6月20日から再開予定です(各回の参加人数を制限する場合があります)。

センターの解説員によるミュージアムガイドは休止していますが、QRコードを利用した展示解説を行っています。展示ケース内に設置しているQRコードを読み込むと、動画による解説が始まる仕組みです。展示室内に現在、QRコードを5カ所設置していますが、今後さらに増やす予定と伺います。

さらに、「縄文シアター」の映像を5年ぶりにリニューアルしました。映像の構成から新たに手掛け、1992年から1994年に行われた大規模発掘調査など、臨場感あふれる映像を中心に、三内丸山遺跡を分かりやすく紹介しています。今回の映像では青森県出身の人気声優、三上枝織さんがナレーションを担当しています。

青森県立美術館は現在、コレクション展のみの開催となっていますが、公式YouTubeに動画をアップし展示の見どころを紹介しています。また、「あおり犬」への外部通路を6月19日から開通させる予定です。「あおり犬」を外で直接見るができるようになります。キッズルーム・カフェは、現在、閉鎖・休業していますが、カフェは7月1日から再開予定です

両施設とも当面は17時までの開館です(入館は16時30分まで)。最新情報はサイトなどでご確認ください。

## 青森県立美術館



## 「春」を刻む作品紹介 志功、ダリ、成田亨ら

青森県立美術館は2020年のコレクション展第1弾として7月12日(日)まで、「春」をテーマに収蔵作品を紹介しています。

油絵画家として出発した棟方志功が、版画に惹かれて制作を始めた初期の作品、「ウルトラマン」「ウルトラセブン」のヒーローや怪獣をデザインした成田亨によるウルトラ怪獣の原画、シュルレアリスムを代表するスペイン芸術家ダリの版画集《シュルレアリスムの思い出》に収められた12枚などを紹介します。

このほか、教育版画の普及につとめた教育者・大田耕士(1909-1998)が集め、五所川原市教育委員会が所蔵する県内各地の小中学生の版画から、花や生き物をモチーフにした作品を展示します。

## QRコードの解説導入 縄文シアター映像刷新



見学時間 9:00~17:00(入場は開館の30分前まで)  
休館日 毎月第4曜日(祝日の場合は翌日)、12月30日~1月1日  
観覧料 一般410円(330円)/高校・大学生等200円(160円)/中学生以下無料  
※( )内は20名以上の団体料金  
※特別展は別料金。展示内容により変更する場合があります。  
※個人観覧者は、青森県立美術館のチケット表示で割引特典あり。  
(詳しくは各施設のチケットカウンターまでお問合せください。)

三内丸山遺跡センター

## 縄文 芸術



青森県立美術館

開館時間 9:30~17:00(入場は16:30まで)  
休館日 毎月第2、第4曜日(祝日の場合は翌日)及び年末  
※企画展開催時、展示替等により変更する場合があります。  
観覧料 一般510円(410円)/高校・大学生300円(240円)/小学生・中学生100円(80円)  
※( )内は20名以上の団体料金  
※企画展は別料金。展示内容により変更する場合があります。  
※個人観覧者は、三内丸山遺跡センターのチケット表示で割引特典あり。  
(詳しくは各施設のチケットカウンターまでお問合せください。)

お問合せ 〒038-0021 青森市安田字近野185  
TEL.017-783-3000 / FAX.017-783-5244  
URL http://www.aomori-museum.jp

新青森駅 → 三内丸山遺跡センター: 循環バス「ねぶたん号」(東口) 約20分・300円、タクシー(南口) 約10分・1,000円前後、徒歩約30分  
→ 青森県立美術館: 「ねぶたん号」(東口) 約10分・300円、タクシー(南口) 約12分・1,200円前後、徒歩約40分  
☆「ねぶたん号」は6月30日まで減便予定です。また、季節運行使は7月23日から運行予定です。ネット等で必ず最新情報をご確認ください。



## 新幹線の線路を守る イースト・アイ 赤と白のおしゃれな列車

東北新幹線や新青森駅で、赤と白の小ぶりな、おしゃれな車両を見かけることがあります。これは、線路の点検に活躍する車両「イースト・アイ」(East-i)です。JR 東日本の資料によると、イースト・アイは秋田新幹線に使われていた「E3系」という車両がベースの6両編成です。正式名称は「E926型新幹線電気・軌道総合検測車」です。「East」はJR 東日本の「東」を、「i」は Inspection(検査)や Intelligent(知能)、Integrated(統合)を意味しています。列車の運行を



制御するシステムやレールのゆがみを計測し、適切な保守作業を行うために運行されています。東海道新幹線には、同じ役割を果たす「ドクター・イエロー」と呼ばれる車両があります。どちらの車両も、ダイヤが公表されていないことから、鉄道ファンなどの中で「見られれば幸せになれる」と評判を呼んでいます。※写真右は2020年4月、新青森駅で撮影。写真上は2019年8月、新青森駅北の北海道新幹線区間で撮影

Facebook ページ Instagram アカウント  
＜ネット情報＞Facebook ページと Instagram アカウントを開設し、独自の記事・情報を掲載しています。ご意見を寄せ下さい。また、PDF 版を青森西高校ホー

ムページ (http://www.aomorinishi-h.asn.ed.jp/) に掲載しています。いずれも、右側の QR コードからご覧いただけます。  
＜お知らせ＞このニュースレターは、青森大学社会学部・楠引研究室が企画・制作し、文責を負っています。お問い合わせ、ご意見等は右記連絡先へお願いします。

〒030-0943 青森市幸畑 2-3-1 青森大学社会学部  
楠引素夫 電話 017-738-2001 内線 731  
shin-aomori@aomori-u.ac.jp  
Facebook ページ Instagram 青森西高校 ホームページ



# はっしん！ 新青森



青森県立青森西高等学校  
Aomori Prefectural Aomori West High School



青森大学  
AOMORI UNIVERSITY

青森大学・青森高等学校  
高大連携事業  
協力：JR 東日本新青森駅  
〔青森学術文化振興財団助成事業〕

## 新青森駅10周年 カウントダウン第2弾 七夕飾りに願い込めて

### 青森西高校「おもてなし隊」がゆく⑫

青森市一円で観光ガイドや魅力発信に取り組んでいる、青森県立青森西高校「おもてなし隊」の生徒たちが6月29日、交流・支援活動を展開しているJR 東日本・新青森駅の在来線改札口に、七夕の笹飾りと、願い事を書き込めるボードを設置しました。7月13日まで掲示されています。



新青森駅は今年12月4日、東北新幹線開業10周年を迎えます。今回の活動は、5月に生徒たちが制作、同駅に張り出した「アマビエポスター」に続く、カウントダウン企画の第2弾として実現しました。

6人の企画チームが中心となってアイデアを考え、全58人の隊員が2週間がかりで織り姫・彦星のイラストや星形の付せん、教材用の笹を準備しました。

当日のセレモニーには45人が参加し、工藤富士雄駅長らが見守る中、「コロナが収束しますように」「健康第一」「成績が上がりますように」といった願い事を書いた台紙をボードに掲示しました。

新青森駅の社員らが思い思いに願い事を記し、台紙に張り付けた後、工藤駅長がねぎらいの言葉を述べました。企画グループの下山瑠菜さん、嘉瀬夏輝さん、藤

原心捺さん(3年)と館田美尋さん、田中碧衣さん、米谷悠里さん(2年)はマスク越しに笑みを浮かべ、学校生活の充実や健康を祈って記念撮影に臨んでいました。

青森西高校は、新青森駅から約700mの距離にあり、生徒たちが毎日、通学に利用しています。今回の企画は、同駅への感謝を込めた「おかえり！ たいだい！ プロジェクト」を兼ねて実施しました。



### 青森西高校「いつでも青森！プロジェクト」

## ねぶた衣装の布マスク 全国と台湾に発送

青森西高校「おもてなし隊」のメンバーと家庭クラブ員43人が6月25日、「いつでも青森！プロジェクト」と銘打って、交流のある全国の人々や台湾の生徒たち55人に、ねぶた衣装で作った布マスクと手紙を発送する作業を行いました。

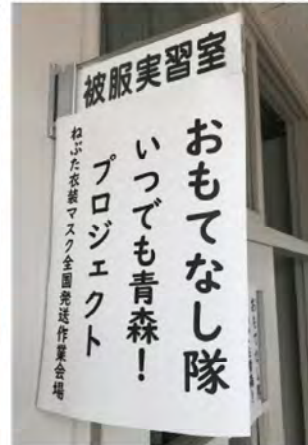
隊員たちは5月から、手作りマスクの作成を進めてきました。ねぶたに参加する「跳ね人」が着る浴衣を加工し、絵柄がよく見えるよう工夫して、布マスクを仕上げました。

今回の送り先は、観光案内をきっかけに礼状が届き、手紙をやり取りしている各地の人たち28人、そして昨

年12月、同校を訪問した台湾・慈濟大学附属高級中学校の生徒27人です。

生徒たちは同校の被服実習室に集まり、1通ずつ、「この大変な時期ですが、青森を感じ取っていただければ」などとつづり、台湾の生徒たちには英文で手紙を記しました。そして、マスクと手作りの「幸せを呼ぶ鈴」、青森市の観光リーフレットをセットにし、丁寧に封筒に詰めていました。

同校はホームページ(裏面のQRコード参照)で、マスクのプレゼントに関する動画を公開しています。7月10日現在、まだ在庫があり、なくなり次第、終了します。



三内丸山遺跡

特別史跡指定 20周年記念企画展

「三内丸山と大湯-縄文の大集落からストーンサークルへ-」

三内丸山遺跡の特別史跡指定 20周年を記念した企画展「三内丸山と大湯-縄文の大集落からストーンサークルへ」が7月18日(土)から11月8日(日)まで開催されます。

特別史跡は遺跡の国宝に相当し、縄文時代の4つの特別史跡のうち、東北には三内丸山遺跡と、大湯環状列石(秋田県)の2つがあります。記念企画展では、この2遺跡を中心に、縄文時代の大規模集落とストーンサークルの魅力を伝えます。遺跡を含む常設展の入場料で観覧でき、入場料は大人410円、高校生・大学生200円、中学生以下は無料です。

発掘調査現場の公開始まる

7月1日から、本年度の発掘調査現場の公開が始まりました。

公開されるのは遺跡北端部(大型掘立柱建物(大ド



大湯環状列石日時計状組石遺構(写真提供:鹿角市教育委員会)

三内丸山遺跡南盛土



ム周辺)の第44次発掘調査地点です。9月18日(金)までの9~12時、13~16時30分までの時間です。ただし、土・日・祝日、休館日(7月27日、8月24日)と雨天時、臨時休止日(発掘調査を実施しない日)は、公開を行いません。

現場公開日は11時から15分程度、調査担当者が発掘調査現場を案内し、最新の発掘状況等を伝えます。

青森県立美術館

コレクション展 2020-2 「この世界と私のあいだ」

青森県立美術館で7月18日(土)、2020年度の常設展第2弾として「コレクション展 2020-2: この世界と私のあいだ」が始まります。

今回のコレクション展では、板材を使って空間を大規模に再構成するなど、「インスタレーション(空間芸術)」分野の活動で知られる斎藤義重(弘前市出身)の作品を紹介するほか、農業とアート体験を組み合わせた、画家・大小島真木と県民の共同制作企画「アグロス・アートプロジェクト」による作品、子どもたちの版画作品などを取り上げ、青森県の芸術風土の魅力にさまざまな角度から迫ります。

芸術や美術館をさらに身近に感じてもらうための特別プログラム「みんなで楽しむ美術館」も同時に開催します。知識によらない作品紹介や光の組み合わせを

Advertisement for the art exhibition 'コレクション展 2020-2: この世界と私のあいだ' with dates 7.18(土) - 9.6(日) and a photo of a sculpture.

もとに色の成り立ちを体感するコーナーなどを会場内に展開します。

「この世界と私のあいだ」は9月18日(日)までの開催。中学生以下は無料です。

なお、休業していたカフェ「4匹の猫」が7月1日から営業を再開しています。当面は11~15時の時間短縮営業となります。



カフェ「4匹の猫」の新メニュー「彩りトマトとモッツアレラチーズのペパロニー」

Information for the Saninnamaruyama Site, including opening hours, admission fees, and contact information.

Advertisement for the '縄文芸術' (Jomon Art) exhibition with a map of the site.

Information for the Aomori Prefectural Museum, including opening hours, admission fees, and contact information.

新青森駅 → 三内丸山遺跡センター: 循環バス「ねぶたん号」(東口) 約20分・300円、タクシー(南口) 約10分・1,000円前後、徒歩約30分
→ 青森県立美術館: 「ねぶたん号」(東口) 約10分・300円、タクシー(南口) 約12分・1,200円前後、徒歩約40分

「リゾートしらかみ」運行再開 7月23日 東北新幹線全線で携帯電話可能

新型コロナウイルスの影響で運行を見合わせていたJR東日本の列車「リゾートしらかみ・五能線クルージングトレイン」が7月3日に運行を再開しました。

「リゾートしらかみ」と「五能線クルージングトレイン」はともに、奥羽本線と、海沿いを走る五能線を経由し、青森駅・弘前駅と秋田駅を結ぶ全車指定の快速列車です。

全国的に高い人気を誇る「リゾートしらかみ」は、白神山地にちなんで「青池」「樺(ぶな)」「くまげら」という名の3編成があります。「五能線クルージングトレイン」は専用の2両編成の列車です。ともに1日3往

復が設定されていますが、運行日は列車によって異なります。JR東日本のホームページ等でご確認ください。

青森県内では、下北半島を走る「リゾートあすなろ下北」(八戸-大湊)が7月11日から、八戸線を走るレストラン列車「TOHOKU EMOTION」(東北エモーション、八戸-久慈)も7月24日に運行を再開します。

JR東日本のニュースリリースによると、7月23日から、東北新幹線(東京-新青森)の全区間で携帯電話(NTTドコモ、KDDI、ソフトバンク)が使用できるようになります。

東北新幹線は順次、不通区間が解消され、今年3月31日には、七戸十和田駅の西側から新青森駅の南側の区間、八甲田トンネルを含む32.7kmでトンネル内携帯電話のサービスが始まりました。

7月23日には、最後に残った区間、新青森駅手前にある細越トンネル内の約3.0kmで、始発列車からサービスが始まります。

北海道新幹線(新青森-新函館北斗)はひと足早く、今年3月25日に全線で携帯電話が使えるようになっており、今回のサービス開始で、東京-新函館北斗間の全区間で通話が可能になります。

Facebook and Instagram account information for the news outlet.

ホームページ (http://www.aomorinishi-h.asn.ed.jp/) に掲載しています。いずれも、右側のQRコードからご覧いただけます。
<お知らせ>このニュースレターは、青森大学社会学部・楯引研究室が企画・制作し、文責を負っています。お問い合わせ、ご意見等は右記連絡先へお願いします。

Contact information for Aomori University, including phone numbers and QR codes for social media.



# はっしん！ 新青森



青森県立青森西高等学校  
Aomori Prefectural Aomori West Senior High School



青森大学  
AOMORI UNIVERSITY

2020年8月10日(月)  
第13号 [FREE]

青森大学・青森西高等学校  
高大連携事業  
協力：JR 東日本新青森駅  
〔青森学術文化振興財団助成事業〕

## 三内丸山遺跡・特別史跡指定20周年記念企画展

# 「三内丸山と大湯－縄文の大集落からストーンサークルへ－」

### 青森県立美術館

## コレクション展 2020-2:「この世界と私のあいだ」



**深鉢形土器** (縄文時代後期)  
大湯環状列石出土  
秋田県・鹿角市教育委員会蔵



大湯環状列石から出土した、縄文時代後期の鉢形土器=写真上・秋田県指定文化財(鹿角市教育委員会蔵)と三内丸山遺跡から出土した中期のミニチュア土器=写真下



東北新幹線・新青森駅の近くに位置する三内丸山遺跡センター、青森県立美術館でそれぞれ、三内丸山遺跡・特別史跡指定20周年記念企画展「三内丸山と大湯－縄文の大集落からストーンサークルへ－」(11月8日まで)と、「コレクション展 2020-2: この世界と私のあいだ」(9月6日まで)が開かれています。

「三内丸山と大湯」展は、ともに「遺跡の国宝」に相当する特別史跡の指定を受けている三内丸山遺跡と大湯環状列石(秋田県鹿角市)に焦点を当てています。

大湯環状列石は、夏至に太陽が沈む方向に並ぶ万座環状列石(大きさ52m)、野中堂環状列石(45m)という、縄文後期の北海道・北東北では最大級のストーンサークルから成ります。

展示では、三内丸山遺跡の出土品や集落構造と対比させながら、「日時計状組石」をはじめ、北東北が寒冷化に向かったとされる時期に形成された大湯環状列石の特徴や、個性的な出土品の魅力に迫ります。

「コレクション展 2020-2: この世界と私のあいだ」では、新型コロナウイルスに伴う「ソーシャル・ディスタンス」(感染拡大防止のための社会的距離)が意識されたといえます。

「物の境界・空間」をキーワードとし、豊富なコレクションをとおして人が生きるべき「これからの距離」について考える展示となっています。

弘前市出身の芸術家・斎藤義重の作品は、恐竜にも船にも見えるような展示がさまざまな想像を誘います。また、大小島真木が2017年から2018年にかけて、青森県民との共同制作企画「アグロス・アートプロジェクト」でつくりあげた絵画「明日の収穫」は、地元の自然や暮らし、農業の営みを織り込んであり、見るたびにさまざまな発見があります。

子どもでも作品に向き合えるヒントを織り込んだ、特別プログラム「みんなで楽しむ美術館」の解説も充実。設営の様子を映像化した作品や、光の三原色で遊べるコーナーなど、遊び心で楽しめる展示もあります。中学生以下は無料とあって、家族での観賞に好適です。

両施設の開館時間等についてはホームページなどでご確認ください。



**斎藤義重** (弘前市出身) 作品の展示風景



写真上は大小島真木と青森県民との共同制作企画「アグロス・アートプロジェクト」による「明日の収穫」。写真左下は、設営作業を映像化した作品、右下は光の三原色を応用した展示



見学時間 9:00～17:00(入場は閉館の30分前まで)  
※2020年8月～9月は9:00～18:00  
休館日 毎月第4曜日(祝日の場合は翌日)、12月30日～1月1日  
観覧料 一般410円(330円)/高校・大学生等200円(160円)/中学生以下無料  
※( )内は20名以上の団体料金  
※特別展は別料金。展示内容により変更する場合があります。  
※個人観覧者は、青森県立美術館のチケット表示で割引(特典あり)。  
(詳しくは各施設のチケットカウンターまでお問合せください。)  
〒038-0031 青森市三内丸山305  
TEL.017-766-8282 / FAX.017-766-2365  
URL <https://sannaimaruyama.pref.aomori.jp>  
※最新の開館情報は、三内丸山遺跡のHPでご確認。もしくは電話にてお問い合わせください

三内丸山遺跡センター

縄文 ⇄ 芸術  
三内丸山遺跡センター 青森県立美術館



青森県立美術館  
開館時間 9:00～17:00(入場は16:30まで)  
休館日 毎月第2、第4曜日(祝日の場合は翌日)及び年末  
※企画展開催時、展示内容により変更する場合があります。  
観覧料 一般510円(410円)/高校・大学生300円(240円)  
コレクション展2020-2は中学生以下無料  
(通常は小・中学生100円、団体80円)  
※( )内は20名以上の団体料金  
※企画展は別料金。展示内容により変更する場合があります。  
※個人観覧者は、三内丸山遺跡センターのチケット表示で割引(特典あり)。  
(詳しくは各施設のチケットカウンターまでお問合せください。)  
〒038-0021 青森市安田字近野185  
TEL.017-783-3000 / FAX.017-783-5244  
URL <http://www.aomori-museum.jp>

新青森駅 → 三内丸山遺跡センター: 循環バス「ねぶたん号」(東口) 約20分・300円、タクシー(南口) 約10分・1,000円前後、徒歩約30分  
→ 青森県立美術館: 「ねぶたん号」(東口) 約10分・300円、タクシー(南口) 約12分・1,200円前後、徒歩約40分

青森西高校「おもてなし隊」がゆく⑬

# 跳ね人姿で出迎え・見送り 鈴やミニ金魚ねぶた配布 新青森駅で「夏の演出」活動

青森西高校・おもてなし隊の生徒が8月1日から5日までの5日間、JR東日本・新青森駅で「夏の演出」のおもてなし活動を繰り広げました。青森ねぶた祭の「跳ね人」（ハネト）姿で旅行者を出迎え・見送りをを行い、また、自分たちで作った「幸せを呼ぶ鈴」を配布しました。旅行者らは、車窓から生徒たちに手を振ったり、スマートフォンで写真に収めたり、一緒に記念撮影したりしながら、生徒たちの活動に応じていました。



活動初日の8月1日は、感染拡大防止に配慮しながら13人の生徒が活動に参加しました。9人の生徒が跳ね人衣装に身を包み、新幹線ホームに並んで、列車が発着するたびに手を振ったり、チャイムのねぶた囃子に合わせて跳ねたりしました。

また、4人の生徒は新幹線コンコースに陣取り、「幸せを呼ぶ鈴」に加えて、新青森駅一帯を学区とする青森市立新城中学校の生徒たちが作成したミニ金魚ねぶた=写真左=を配りました。

例年なら青森ねぶた祭や弘前ねぶた祭が開催されて大混雑する時期ですが、今年は新型コロナウイルスの影響で県内のほとんどの祭りが中止になりました。

それだけに、生徒たちは数少ない活動の場を生かそうと、懸命に跳ね、手を大きく振っていました。

2年の能登谷友喜君は「緊張したけれど、こちらから声を掛けられてよかった」と話していました。



## JR 津軽線に臨時便運行 龍飛崎観光などに好適

JR 東日本は夏から秋にかけて、津軽線（青森～蟹田～三厩、55.8km）に、津軽半島北端・龍飛崎の観光などに便利な臨時便1往復を運行しています。

臨時便は、下りが9:52 蟹田駅発～10:33 三厩駅着、上りが10:40 三厩駅発～11:21 蟹田駅着。8月17日までの連日と、9月27日までの土日・祝日に運行します。下り便は三厩駅で10:35 発・龍飛崎行きの外ヶ浜町営バスに接続します。

通常ダイヤでは、午前中に龍飛崎に到達するには6:15 青森駅発、7:07 蟹田駅発といった列車、または6:32 新青森駅発の北海道新幹線に乗る必要がありました。臨時便によって、例えば北海道新幹線「はやぶさ1号」で10:07に奥津軽いまべつ駅到着、近くの津軽二股駅で10:19に乗り換え、といった旅が可能になりました。詳しくは駅窓口などでお問い合わせ下さい。

Facebook ページ  
Instagram アカウント

<ネット情報> Facebook ページと Instagram アカウントを開設し、独自の記事・情報を掲載しています。ご意見をお寄せ下さい。また、PDF 版を青森西高校ホームページ

## 東北新幹線と青森① 2002年、「はやて」八戸へ

東北新幹線は2010年12月4日に全線開通しました。構想の誕生から全線開通まで、約40年もの年月を要しました。今号から4回に分けて、「青森県と新幹線の関わり」を振り返ります。

◇ ◇ ◇  
新幹線の建設は、「整備計画」の決定が実質的なスタートとなります。東北新幹線の整備計画は東京～盛岡間が1971年に、盛岡～青森間が1973年に決まりました。盛岡から南の区間はすぐに工事が始まり、1982年には大宮～盛岡間が暫定開業、1985年に上野まで開業しました。さらに1991年には東京～上野間が開業しました。

この間、新幹線を含む全国の主要な鉄道を運営していた「国鉄」が1987年、多額の赤字などを理由に、

JR グループへ分割・民営化されるという大きな変化がありました。

一方、盛岡から北は着工が遅れ、1991年に工事が始まりました。当初は山形新幹線や秋田新幹線と同じ「ミニ新幹線」として着工されましたが、その後の見直しで、現在の「フル規格」新幹線に変更されました。

盛岡から北の東北新幹線は、盛岡～八戸間と八戸～新青森間に分かれて工事が進みました。八戸駅が開業を迎えたのは、盛岡開業から20年たった2002年12月1日のことでした。

初めて青森県へ乗り入れる新幹線は「はやて」と名付けられました。写真左下は開業日、ホームに入線する、上り「はやて」の一番列車です。



ホームページ (<http://www.aomorinishi-h.asn.ed.jp/>) に掲載しています。いずれも、右側のQRコードからご覧いただけます。

<お知らせ> このニュースレターは、青森大学社会学部・楯引研究室が企画・制作し、文責を負っています。お問い合わせ、ご意見等は右記連絡先へお願いします。

〒030-0943 青森市幸畑2-3-1 青森大学社会学部  
楯引素夫 電話 017-738-2001 内線 731  
shin-aomori@aomori-u.ac.jp







# はっしん！ 新青森



青森県立青森西高等学校  
Aomori Prefectural Aomori Seirin Senior High School



青森大学  
AOMORI UNIVERSITY

2020年9月10日(木)  
第14号 [FREE]

青森大学・青森西高等学校  
高大連携事業  
協力：JR 東日本新青森駅  
〔青森学術文化振興財団助成事業〕

## 東北新幹線・新青森開業 10 周年 カウントダウン開始

### 青森西高校「おもてなし隊」がゆく⑭

今年 12 月 4 日の東北新幹線全線開通・新青森開業 10 周年に向け、「100 日前」に当たる 8 月 26 日、カウントダウンが始まりました。青森西高校「おもてなし隊」の生徒たちが、自分たちで作ったカウントダウン・カレンダーを新幹線コンコースに設置し、乗降客に記念品をプレゼントしました。



カレンダーは、3 年生の三浦結菜さんが中心となり、青森県産のリンゴを PR するポスターとともに作りました。8 月 26 日は約 40 人の生徒が新青森駅に集まり、カレンダーとポスターをお披露目した後で、「あずまし」「わいは」といった津軽弁入りのプレートをつけた鈴を乗降客に配りました。生徒たちは「10 周年まで 100 日になりました」と笑顔で語り掛け、用意した 100 個の鈴は 30 分ほどでなくなりました。

三浦さんは「県外の方にも、リンゴやニンニクといった青森の魅力を届けたい」と語っていました。(写真は右上が三浦さんとカレンダー・ポスター、左上が配布された鈴とプレート、右下が配布風景、左下がセレモニーの全景)



## プレミアム・ビュー・オブ・アオモリ① 「新青森駅発」ミニ動画集 ドローン駆使、新鮮な感動



JR 東日本は「プレミアム・ビュー・オブ・アオモリ」と題して、「新青森発」のミニ動画集を YouTube で公開しています。青森県内、そして道南・函館市の観光スポットを紹介する映像です。全部で 15 本、新青森駅からの所要時間の概算も表示しています。どの映像も、ドローンを駆使し、また、いくつもの

季節にわたって、丁寧に取材を繰り返している点が印象的です。これまで見たことのない角度から、それぞれの観光地の魅力をあらためて発掘していて、見るたびに新鮮な驚きと感動を誘います。当ニュースレターで各編を紹介していきます(この QR コードからの限定公開です)。

### 【北限のハス】

平川市・猿賀神社の境内にある鏡ヶ池を埋め尽くします。例年、7 月上旬から 9 月初旬までが見頃。新青森駅から在来線と車で約 50 分。



### 【寒立馬】

下北半島・東通村の尻屋崎付近で放牧されている「寒立馬(かんだちめ)」の映像。新青森駅から在来線と車で約 170 分。



### 【仏ヶ浦】

津軽海峡に面した下北半島・佐井村の景勝地です。新青森駅から在来線と車で約 210 分。



## 東北新幹線と青森② 2010 年、「終点」に到達

「青森県と新幹線の関わり」を振り返る第 2 弾です。今回は、2010 年 12 月 4 日の東北新幹線全線開通・新幹線青森開業です。

東北新幹線は 1982 年、大宮-盛岡間が開業しました。そして 1985 年に上野-大宮間が、1991 年に東京-上野間が開業しました。それからさらに 11 年後の 2002 年、盛岡-八戸間が開業しました。そして、八戸から北の区間は構想誕生から完成まで、曲折がありました。

東北新幹線・盛岡以北のうち、八戸-青森間などは 1991 年にいったん、「ミニ新幹線」として建設される方針が決まりました。八戸-青森間は在来線の線路をそのまま使い、秋田新幹線のように、在来線と新幹線を行き来できる車両を運行させる計画でした。

しかし、この方式では、青森から北へ北海道新幹線が延びた場合、時間がかかりすぎるなどから、青

森県が中心となり、通常の新幹線規格(フル規格)で建設するよう求める運動が繰り広げられました。その結果、盛岡以北は 1996 年、全線が「フル規格」で建設されることが決まりました。ただ、新幹線駅は青森市の中心部から 4km 離れた、新青森駅となりました。

開業当日、県内はもちろん、北海道など県外からも多くの人が感無量の面持ちで、夜明け前の新青森駅に集まり、ホームを埋め尽くしました。午前 6 時 31 分、一番列車「はやて 12 号」が東京駅へ出発しました。

八戸開業から 8 年遅れ、盛岡開業から 28 年遅れての全線開業となりました。新青森駅のほか、新設の七戸十和田駅や八戸駅、そして在来線・奥羽本線でつながる弘前駅でも、開業を祝うセレモニーが行われました。

写真左上は記念のセレモニーが行われた 11 番線ホームの様子です。また、左下は、東京駅へ出発する一番列車「はやて 12 号」です。

企画展

「三内丸山と大湯一縄文の大集落からストーンサークルへ」

# 縄文社会の移り変わりに迫る

三内丸山遺跡センターで三内丸山遺跡・特別史跡指定 20周年記念企画展「三内丸山と大湯一縄文の大集落からストーンサークルへ」が11月8日(日)まで開かれています。「遺跡の国宝」に相当する特別史跡、三内丸山遺跡と大湯環状列石(秋田県鹿角市)はともに世界文化遺産登録を目指す「北海道・北東北の縄文遺跡群」を構成する遺跡です。企画展は両者の対比から、縄文時代の社会の移り変わりに迫っています。



三内丸山遺跡は、気候が比較的暖かかった縄文時代中期に最盛期を迎えました。新潟県のヒスイや北海道の黒曜石などが出土し、遠方との交易も活発化している様子が分かっています。この時代の集落は、道路などに沿って、建物などが線状に配置された構造が特徴的だといえます。

★環状列石で「つながり」確認か

一方、大湯環状列石は、気候が寒冷化した縄文時代後期に造られました。集落は小規模化して分散するようになり、当時の人々が互いのつながりを確認するため、環状列石を造ったのでは…とも考えられているそうです。構造も「環状」になります。

また、三内丸山遺跡は、祭祀(さいし=まつり)に関連するとみられる土偶やミニチュア土器、「三角形土製品」が、集落内の「盛土」や、使用されなくなった

大型竪穴建物跡から出土しています。

これに対し、大湯環状列石は、第13号で紹介した個性的な土器をはじめ、クマの顔を思わせる土偶、三方に脚が伸びた形の「三脚石器」など、祭祀に関連するとみられる遺物が出土しているものの、祭祀の場は、集落とは離れていたようです。

★2つの遺跡を結ぶ要素も

対照的な側面を持つ2つの遺跡ですが、互いを結ぶ要素も企画展で紹介されています。三内丸山遺跡では、環状に石を配置した「環状配石墓」が、道路に沿って列状に出土しています。また、大湯環状列石と同じ秋田県鹿角市で見つかった天戸森(てんともり)遺跡では、環状配石墓が、馬蹄形状に配置されています。このような2遺跡の事例は、大湯環状列石へつながる原型として考えることができるとのことです。

写真左上は三内丸山遺跡の南盛土。写真左は、同遺跡の大型竪穴建物跡から出土した祭祀用とみられる出土品。写真右は、大湯環状列石から出土した、クマの顔に見える縄文時代後期の土偶。写真中は同じく、祭祀に関係するとみられる三脚石器(ともに鹿角市教育委員会蔵)



## 音楽劇アレコ

## 出演しませんか？ 青森県立美術館

## ドラマリーディング



参加者募集

青森県立美術館は2021年度、絵画と演劇、音楽、ダンスを融合させた「音楽劇アレコ」を上演予定です。出演者(男性2名、女性2名程度)のオーディションを青森市、八戸市、むつ市で実施します。演劇の身体表現などを学ぶワークショップも同時開催、参加は無料です。10月8日(木)締め切り。

日程と会場は以下の通り。

- ・10月18日(日)13:00～: 下北文化会館
  - ・10月24日(土)13:00～: 青森県立美術館
  - ・10月25日(日)13:00～: 八戸市・友の会福祉会館
- また、青森県立美術館ドラマリーディングクラブの

会員を募集しています。ドラマリーディングとは「文学作品やオリジナルの戯曲等を、映像や照明、音楽等を伴って朗読する演劇」です。年齢・経験等は問いません。

12月5日(土)に開催予定の定期公演へ参加を希望する場合は、10月23日(金)までの申し込みが必要です。ともに申し込み・問い合わせは同館パフォーミングアーツ推進実行委員会事務局へ。電話 017-783-5243(平日 9:00～17:00)、電子メールは「音楽劇アレコ」が aleko@aomori-museum.jp、ドラマリーディングが drama@aomori-museum.jp。



見学時間 9:00～17:00(入場は開館の30分前まで)  
※2020年8月～9月は9:00～18:00

休館日 毎月第4月曜日(祝日の場合は翌日)、12月30日～1月1日

観覧料 一般410円(330円) / 高校・大学生等200円(160円) / 中学生以下無料

※( )内は20名以上の団体料金  
※特別展は別料金、展示内容により変更する場合があります。  
※個人観覧者は、青森県立美術館のチケット表示で割引特典あり。(詳しくは各施設のチケットカウンターまでお問合せください。)

〒038-0031 青森市三内丸山305  
TEL.017-766-8282 / FAX.017-766-2365  
URL. https://sannaimariyama.pref.aomori.jp

※最新の開館情報は、三内丸山遺跡のHPでご確認、もしくは電話にてお問い合わせください

三内丸山遺跡センター

縄文 ⇄ 芸術

三内丸山遺跡センター

青森県立美術館

開館時間 9:30～17:00(入場は16:30まで)

休館日 毎月第2、第4月曜日(祝日の場合は翌日)及び年末

※企画展開催時、展示替え等により変更する場合があります。

観覧料 一般510円(410円) / 高校・大学生300円(240円) / 小学生・中学生100円(80円)

※( )内は20名以上の団体料金  
※企画展は別料金、展示内容により変更する場合があります。  
※個人観覧者は、三内丸山遺跡センターのチケット表示で割引特典あり。(詳しくは各施設のチケットカウンターまでお問合せください。)

〒038-0021 青森市安田字近野185  
TEL.017-783-3000 / FAX.017-783-5244  
URL. http://www.aomori-museum.jp

新青森駅 ⇒ 三内丸山遺跡センター: 循環バス「ねぶたん号」(東口) 約20分・300円、タクシー(南口) 約10分・1,000円前後、徒歩約30分  
⇒ 青森県立美術館: 「ねぶたん号」(東口) 約10分・300円、タクシー(南口) 約12分・1,200円前後、徒歩約40分

Facebook ページ Instagram アカウント

<ネット情報>

Facebook ページとInstagram アカウントを開設し、独自の記事・情報を掲載しています。ご意見をお寄せ

下さい。また、PDF版を青森西高校ホームページ(<http://www.aomorinishi-h.skn.ed.jp/>)に掲載しています。いずれも、右側のQRコードからご覧いただけます。

☆このニュースレターは、青森大学社会学部・榎引研究室が企画・制作し、文責を負っています。お問い合わせ

合わせ、ご意見等は下記連絡先へお願いします。

〒030-0943 青森市幸畑 2-3-1 青森大学社会学部 榎引素夫 電話 017-738-2001 内線 731

FB ページ Instagram

青森西高校 ホームページ



# はっしん! 新青森

青森県立青森西高等学校  
Aomori Prefectural Aomori West Senior High School



青森大学  
AOMORI UNIVERSITY

青森大学・青森西高等学校  
高大連携事業  
協力：JR 東日本新青森駅  
〔青森学術文化振興財団助成事業〕

## 三内丸山遺跡 「縄文秋祭り」サポート

青森西高校「おもてなし隊」がゆく⑮

三内丸山遺跡で9月26、27の両日、本年度の「三内丸山縄文秋祭り」が開かれました。恒例の発掘・ものづくり体験や高所作業車からの展望、発掘調査の現地説明会、クイズラリーを、主に県内から訪れた観光客が楽しみました。県立青森西高等学校「おもてなし隊」の生徒たちは、狩猟体験をゲームにした「縄文ハンター」のコーナーなどでボランティア活動を展開しました。

縄文祭りは毎年、春・夏・秋・冬と4回開かれています。26日午後の「縄文ハンター」コーナーは、青森西高校2年の大澤芽生さんと奥谷愛梨さん、1年の田中悠太さんがサポートを担当しました。曇り空で風がやや強い、あいにくの天候でしたが、3人は「ハンター体験いかがですか?」と親子連れなどに声を掛け、釣りや狩りの仮想体験をサポートしました。

最初は少し緊張した面持ちでしたが、慣れるに従ってはきはきと答えがでるようになりました。田中君は「誘われて、もてなす側の体験をしてみたいと考えました」と参加の動機を語り、手応えを感じていた様子でした。一緒に活動したボランティアの鎌田論さんは「ものおじせす頼もしい」と顔をほころばせていました。



## 新青森駅にフラワーアレンジメント 青森県花のくにつくり推進協議会

花の消費が新型コロナウイルス感染症の影響で落ち込んでいることから、県内の花き市場や生花店、全農青森県本部、青森県庁などで作る「青森県花のくにつくり推進協議会」は10月31日まで、国の支援を活用して、県内の主要駅や公共施設、官公庁87カ所に県産の花を使ったフラワーアレンジメントを飾る活動を展開しています。「花のある日常生活」の提案が目的といえます。

新青森駅は、自動券売機・みどりの窓口前に、5日に1回、新しい花がお目見えしています。同駅の展示を担当する同市内の有限会社花寿樹の佐々木康浩さんは、「青森の玄関口で、青森の花の素晴らしさを味わっていただければ、生産者支援の思いを込めて飾っていますが、花を入れ替えるたびに、見に来て下さる人もいて、反応は上々です」と話していました。

※写真は新青森駅のフラワーアレンジメントと佐々木さん。



## プレミアム・ビュー・オブ・アオモリ②

### むつ市の夜景、階段国道、三陸種差海岸

JR 東日本が制作した特選「新青森駅発」ミニ動画「プレミアム・ビュー・オブ・アオモリ」15編の第2弾、当ニュースレター限定です。QRコードからどうぞ!  
【むつ市の夜景】「光のアゲハチョウ」の異名があります。11月初めまで同市の釜臥山展望台で観覧できます。新青森駅から鉄道と車で約180分。

【階段国道】津軽半島の先端、龍飛崎にあります。日本で唯一、徒歩でしか通れない国道339号とドローンからの絶景。新青森駅から鉄道と車で約90分。  
【三陸種差海岸】作家・司馬遼太郎が絶賛した光景です。太平洋を望む岩肌と美しい芝生のコントラストは例を見ません。新青森駅から鉄道で約70分。



## 東北新幹線と青森③

## E5系「はやぶさ」デビュー、震災克服



「青森県と新幹線の関わり」を振り返る第3弾は、E5系「はやぶさ」デビューと東日本大震災の克服です。

東北新幹線の全線開通・新青森駅開業に合わせて、JR 東日本は新鋭車両・E5系を開発しました。時速320kmと国内最速の営業速度を誇り、豪華な「グランクラス」を備えるなど、それまでの新幹線のイメージを一新する車両として話題を呼びました。

それまでの東北新幹線の主役「はやて」には、E2系と呼ばれる車両が使用されていました。盛岡から南の区間を最高275kmで走行、新青森駅開業時には東京-新青森間を最速3時間20分で結びました。

E5系の列車は「はやぶさ」と名付けられ、新青森駅開業の3カ月後、2011年3月5日のデビューが決まりました。当初は1日に東京-新青森間を2往復、東京-仙台間を1往復し、最高時速を300kmに抑えて東京-青森間を3時間10分で結ぶことになりました。そして2年後に320km運転を実施、東京-新青森間を3時間5分まで短縮する構想でした。

2011年2月には試乗会が行われ、沿線の人々や全国

の鉄道ファンが、速いだけでなく揺れが少ないE5系の乗り心地を試しました。

デビュー当日は新青森駅の11番ホームでセレモニーが行われ、関係者が東北新幹線の新たな門出を祝いました。観光関係者らは、春の観光シーズンに弾みを付けたい、と意気込んでいました。

しかし、その翌週の3月11日、東日本大震災が発生。東北新幹線は大きな被害を受けました。さらに、4月7日の余震によって新たな被害が発生しました。

それでも、懸命な復旧作業の結果、東京-那須塩原間や盛岡-新青森間から徐々に運転を再開し、4月29日には50日目に、全線で運転を再開しました。しばらくは減速運転が続きましたが、9月に解除され、「はやぶさ」も300km運転を再開しました。

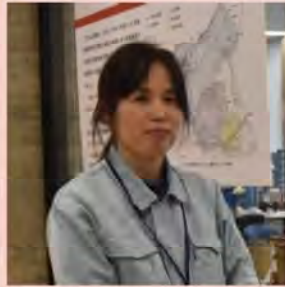
その後、E5系は予定通り2013年3月から320km運転を始め、東京-新青森間の所要時間は2時間59分と3時間を切りました。同時に、新青森駅発着の列車はすべてE5系となり、新たな時代を刻みました。

※写真上は試乗会時のE5系右(2011年2月11日、盛岡駅)。写真下は運行開始時の新青森駅11番ホーム

# 「三内丸山と大湯-縄文の大集落からストーンサークルへ」 受け継がれた「暮らし」感じ取って

## 三内丸山遺跡

記念企画展担当・佐藤さん



三内丸山遺跡・特別史跡指定 20周年記念企画展「三内丸山と大湯-縄文の大集落からストーンサークルへ」が11月8日(日)まで開かれています。ともに「遺跡の国宝」に相当する特別史跡に指定され、世界遺産登録を目指す「北海道・北東北の縄文遺跡群」の構成資産でもある三内丸山遺跡と大湯環状列石(秋田県鹿角市)に焦点を当てた企画展です。担当した三内丸山遺跡センター文化財保護主幹、佐藤真弓さんに見どころをうかがいました。

—— 今回の企画展で来場者に感じ取ってほしいことは。

「北海道・北東北の縄文時代の暮らしが、前期～中期の三内丸山遺跡から、後期の大湯環状列石へと受け継がれていることです。また、三内丸山遺跡は建物などが線状に配置されているのに対し、大湯環状列石は環状の構造を持つといった違いもあります」

「三内丸山遺跡の面積は42ヘクタールあり、東京ディズニーランドとほぼ同じです。集落が広がっていった様子を、東京ディズニーランドを実際に歩いてみたことのある方はその広さと比べて、実感していただければ、大湯環状列石については、縄文の人々が6000点以上の大きく重い石を運んだ様子を想像してほしいですね」

—— 企画展を手掛けて、あらためて気付いたことは。

「三内丸山遺跡から縄文時代で最も多い2000点以上の土偶が見つかったことです。青森県にいと身近な存在ですが、全国的にみると、土偶はかなり特殊な出土品です」



—— 展示品の中で、気になる出土品は。

「三内丸山遺跡から出土したミニチュア土器です。かごや木製品をかたどったとみられるものも。同じく、三角形土製品にも注目しています。大湯環状列石の出土品では、縄文時代後期の鉢形土器です。両手にちょうど入る大きさで、内側の底に文様が施してあります。このため、器の中を見せることを意識しているのではないかと考えています」

—— 考古学の道を選ばれたきっかけは。

「大学では日本史を学んだ時、文献などの史料ではなく、主に人々のつくった痕跡やモノから歴史を検証する新鮮さに引かれて、考古学を専攻、古墳時代を研究しました」

※写真右上から三内丸山遺跡出土の土偶、ミニチュア土器、三角形土製品。左上・左下は大湯環状列石出土の鉢形土器(鹿角市教育委員会所蔵)。



## コレクション展 2020-3 「ふるえる絵肌」

### 青森県立美術館

#### 伊藤二子、佐野ぬい作品など紹介

青森県立美術館で「コレクション展 2020-3: ふるえる絵肌」が11月23日(祝日)まで開かれています。作品の表面に現れる、色や形の質感「絵肌(マチエール)」に着目して収蔵品を展示しています。



2019年1月に亡くなった八戸市の伊藤二子の作品群は「かきむしる -いのちが形をあらわすとき」と題して紹介。独自のペインティングナイフで描かれた「非具象画」が醸し出す鮮烈な色彩と意匠が、意識と感情を揺さぶります。

「佐野ブルー」と称される、青を基調とした作風で知られる弘前市出身の佐野ぬいの絵画は、「青のエッセイ」と題したコーナーで展示されています。心わたつ青、少し影のある青、しっとりとした青-。さまざまな構図と筆致、サイズの作品群が、津軽の雪を思わせる白い壁をバックに、いくつもの音楽を奏



でているような雰囲気です。

異色の展示は、太宰治の短編小説「皮膚と心」と、アメリカのアーティスト、エイドリアン・パイパーの組写真「Meat into Meat」を並べた「肉は心」です。太宰の作品は、印刷した文章をそのまま美術館の白壁に張り付けてあり、文章とともに、まさに「文字や文章が生み出す質感」を読み解いていく仕掛けです。それを読み終えたところで、パイパーの当時のパートナーが、ハンバーグを食べていく光景が目に入ります。一見、平凡な行為の光景の連鎖に、味覚や嗅覚まで微妙に刺激されるような、独特の「質感」が漂います。

ほかに今井俊満、棟方志功、馬場のぼる、橋本花、成田亨の作品を取り上げています。※写真上は伊藤二子の作品群。写真中は佐野ぬい「青のエッセイ」展示。写真左下は太宰治「皮膚と心」(1939)展示の様子。写真右下はエイドリアン・パイパー「Meat into Meat」(1968)展示の様子。

見学時間 9:00～17:00(入場は開館の30分前まで)

休館日 毎月第4月曜日(祝日の場合は翌日)、12月29日～1月1日  
※臨時休館2020年11月15日～20日

観覧料 一般 410円(330円)/高校・大学生等 200円(160円)/中学生以下 無料  
※( )内は20名以上の団体料金  
※特別展は別料金、展示内容により変更する場合があります。  
※個人観覧者は、青森県立美術館のチケット表示で割引特典あり。(詳しくは各施設のチケットカウンターまでお問合せください。)

お問合せ 〒038-0031 青森市三内丸山305  
TEL.017-766-8282 / FAX.017-766-2365  
URL <https://sannaimaryama.pref.aomori.jp>

三内丸山遺跡センター

縄文 芸術

三内丸山遺跡センター 青森県立美術館

青森県立美術館

開館時間 9:30～17:00(入場は16:30前まで)

休館日 毎月第2、第4月曜日(祝日の場合は翌日)及び年末

観覧料 一般 510円(410円)/高校・大学生 300円(240円)/小学生・中学生100円(60円)  
※( )内は20名以上の団体料金  
※企画展は別料金、展示内容により変更する場合があります。  
※個人観覧者は、三内丸山遺跡センターのチケット表示で割引特典あり。(詳しくは各施設のチケットカウンターまでお問合せください。)

お問合せ 〒038-0021 青森市安田字近野185  
TEL.017-783-3000 / FAX.017-783-5244  
URL <http://www.aomori-museum.jp>

新青森駅 ⇒ 三内丸山遺跡センター: 循環バス「ねぶたん号」(東口) 約20分・300円、タクシー(南口) 約10分・1,000円前後、徒歩約30分  
⇒ 青森県立美術館: 「ねぶたん号」(東口) 約10分・300円、タクシー(南口) 約12分・1,200円前後、徒歩約40分

Facebook ページ Instagram アカウント

<ネット情報>  
Facebook ページとInstagram アカウントを開設し、独自の記事・情報を掲載しています。ご意見をお寄せ

下さい。また、PDF版を青森西高校ホームページ(<http://www.aomorinishi-h.asn.ed.jp/>)に掲載しています。いずれも、右側のQRコードからご覧いただけます。  
☆このニュースレターは、青森大学社会学部・楡引研究室が企画・制作し、文責を負っています。お問い合わせ

合わせ、ご意見等は下記連絡先へお願いします。  
〒030-0943 青森市幸畑2-3-1 青森大学社会学部 楡引素夫 電話 017-738-2001 内線 731

FB ページ Instagram

青森西高校 ホームページ



# はっしん！ 新青森

青森県立青森西高等学校  
Aomori Prefectural Aomori West High School



青森大学  
AOMORI UNIVERSITY

青森大学・青森西高等学校  
高大連携事業  
協力：JR 東日本新青森駅  
〔青森学術文化振興財団助成事業〕

## 新青森駅開業 10 周年あと 1 カ月 「紅葉の木」ポスター掲示

### 青森西高校「おもてなし隊」がゆく⑩

青森県立青森西高等学校「おもてなし隊」の生徒たち 29 人が、2020 年 12 月 4 日の東北新幹線全線開通・新青森駅開業 10 周年に向けて、1 カ月前に当たる 11 月 4 日、待合室に「紅葉の木」ポスターを掲示しました。

生徒たちが 1 カ月がかりで制作したポスターは、100 枚余りの葉っぱが磁石で取り付けてあり、待合室の利用者らがはがしていくと、下から 10 周年記念の文

字が現れるようになっています。

企画を担当した 2 年の赤石怜君は「色の組み合わせを考えるのに苦労しました。10 周年を盛り上げていきたい」と話していました。

同駅では開業 10 周年翌日の 12 月 5 日(土)、記念セレモニーのほか、ミニ新幹線の運行、コンコース内でのプレゼント配布などが行われる予定です。



## 鉄道クイズ作成、掲示

青森西高校「おもてなし隊」の生徒たちは、10 月 9 日には、東北新幹線全線開通・新青森開業 10 周年の「鉄道クイズ」を作成、新青森駅の待合室に張り出しました。

3 年生が中心となって企画・制作し、約 30 人の生徒が設置作業に参加しました。工藤富士雄駅長も協力して、市内の小浜保育園の子どもたちが制作した 10 周年記念のちぎり絵につなげて張り付けました。

隊員の木村明日香さんは「12 月の 10 周年記念イベントで解答を発表します。多くの人に挑戦してほしい」と話していました。



### 東横イン 新青森駅東口

## 八甲田、新幹線の眺め楽しんで

### 支配人・佐藤真奈美さん（弘前出身）に聞く



2020 年 3 月、ビジネスホテル「東横イン新青森駅東口」がオープンしました。14 階建てで八甲田連峰や陸奥湾、そして東北・北海道新幹線を望む、新青森駅前の新しい「顔」です。開業から 8 カ月の印象を、支配人の佐藤真奈美さん(46)にうかがいました。スタッフのほとんどが地元出身といい、「駅一帯を魅力的なエリアに」と張り切っています。

—青森県の玄関口で働いてみるの印象は。

「新幹線が間近に見えて、三内丸山遺跡や青森県立美術館まで歩いて 30 分ほど。新青森駅の周辺の景色をもっと楽しんでいただけるようにできればと思います」

### スタッフの大半は青森市出身

—新型コロナウイルスの感染拡大の中、波乱のスタートになりました。

「最初はどうかと思いましたが、最近ようやく、お客さまが増えました。リピーターも多いんです。半数が新幹線利用、半分はそれ以外の方です」

—どのような経緯で、このホテルの支配人に？

「弘前市に生まれ、金融機関で 21 年間働いていました。2014 年、『別の、新しい仕事をしたい』と思い立て、東横イン弘前駅前前でフロント係に。次の職場が、この新青森駅東口です。スタッフの大半は青森市出身です」

### 「思いの詰まったホテル」伝えたい

—仕事の上でのモットーは。

「自分で何でも挑戦してみて、だめだったら別の方法を考える。接客も初めは苦手に感じていたのですが、ホテルで働き始めて、その楽しさが分かりました」

—今後の抱負は。

「実はオーナーは徳島県の方なんです。青森県を訪れてすっかり気に入って、ここにぜひ、ホテルを建てたい。いろいろな人の思いが詰まったホテルなので、それを伝えていきたい」

—最後に、ホテルのアピールを。

「南側の部屋は八甲田連峰が、北側は陸奥湾が見えるほか、6 階以上は、南側は新青森駅ホーム、北側は北海道新幹線の線路と車両基地を見下ろせます。『トレイン・ビュー・ホテル』として利用されるお客さまも。ぜひ、地元の新しい景観をお楽しみ下さい」

## プレミアム・ビュー・オブ・アオモリ③

### 十和田湖、深浦の大いちょう、中野もみじ山

JR 東日本が制作した特選「新青森駅発」ミニ動画「プレミアム・ビュー・オブ・アオモリ」15 編の第 3 弾、当ニュースレター限定です。QR コードからどうぞ！

【十和田湖】青森県を代表する観光地。幻想的な雲海と新緑の季節、そして全国に知られる紅葉のダイジェストをどうぞ。新青森駅から鉄道と車で約 100 分。

【深浦の大いちょう】県の西南端・深浦にあり、齢樹 1,000 年以上、高さは 31m。幹周り 22m は、いちょうで日本一とされます。新青森駅から鉄道で約 140 分。

【中野もみじ山】弘前市と八甲田山系の間、黒石市の奥座敷のような紅葉の名所です。県内では遅い時期まで楽しめます。新青森駅から鉄道と車で 60 分。



## コレクション展 2020-3「ふるえる絵肌」 多様な色・形の「質感」を紹介

青森県立美術館

青森県立美術館で「コレクション展 2020-3: ふるえる絵肌」が11月23日(月・祝日)まで開かれています。作品の表面に現れる、色や形の質感「絵肌(マチエール)」に着目した企画です。学芸員の奥脇高夫さんに案内していただきました。



「マチエールとは作品表面に表れる色や形を指します。今回は『表に現れるもの』に加えて、『作品の内部に存在している質感・状態』を含めてマチエールとして紹介したいと思います。そんな展覧会を象徴する作品が、最初に展示されている今井俊満(1928-2002)の作品『華』です」

1950年代、ヨーロッパで「アンフォルメル」という前衛美術運動に触れた今井は、日本に積極的にそれを紹介しました。厚く塗られた油絵の具、激しく繊細な筆致が、アンフォルメルやマチエールを、そしてフランスと日本の美術の出会いを象徴する作品といえます。

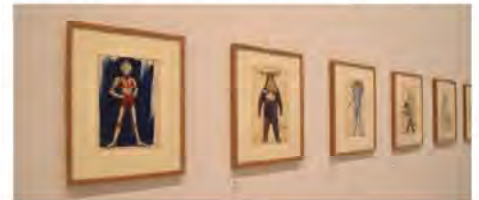
続く棟方志功の「板画」群(写真右上)は、板から紙に転写された作品なので一見、マチエールとは無縁

に感じられます。「しかし、志功らしい太い線、『肉々しい線』と技法に、マチエールを感じてほしいとのこと。

絵本「11匹のねこ」で知られる馬場のぼるによる、ねこを題材にした絵皿や立体作品が並ぶコーナーも。ほのぼのとした作風で知られる馬場のぼるが、このような作品を残したことはあまり知られていなかったそうです。

一緒に展示されている漫画の原稿と併せて、平面になっても立体になっても変わらない、彼のマチエールを感じ取ってもらえれば、といえます。

このほか、ウルトラマンや怪獣の造形で知られる成田亨のデザイン画(写真右下)、画家・佐野めい、造形家・伊藤二子の作品などを紹介しています。



## 見学にITガイド利用いかが？ VR活用、当時の景観を復元、解説

三内丸山遺跡

縄文のころ、三内丸山にはどんな景観が広がっていたのでしょうか。三内丸山遺跡センターの縄文時遊館にはさまざまな復元図やジオラマが展示されていますが、実際に遺跡の中を見学する際、強い味方になってくれるのが、「ITガイド」です。VR(ヴァーチャル・リアリティ)で当時の光景を“復元”してくれます。

南盛土や北盛土、北の谷、大型堅穴式住居など、遺跡内の主要ポイントでかざせば、イラストやアニメーションで、集落の様子や人々の暮らしが表示されます。

文字と音声による解説付きで、自分のペースでゆったりと見学する方にお勧めです=写真左上・右上。

縄文時遊館の展示コーナーでは、出土品を360°の角度から、さらには拡大して見られる機能もあります。土偶の裏側や石器の加工の跡をしっかりと確かめられます。

利用は無料、6カ国語に対応しています。総合案内で借りられ、予約も可能です。取材に対応して下さい了解説員の工藤彩華さんは「遺跡への理解を深められます。ぜひ、ご活用下さい」と話していました。



## 東北新幹線と青森④ 2016年「北海道」と一体に

「青森県と新幹線の関わり」を振り返る連載の第4回・最終回は北海道新幹線の開業です。

青函トンネルは当初から北海道新幹線が走れる規格で建設されていました。青森県が、東北新幹線に一時、導入されなかった「ミニ新幹線」に強く反対したのも、「フル規格」の新幹線で北海道へ早く到達する必要がある、という理由からでした。

東北新幹線全線開通から5年3カ月後の2016年3月26日、北海道新幹線は開業を迎えました=写真左・右。一番列車は新青森駅発、新函館北斗行き「はやて

91号」。午前6時32分、11番ホームから北へ向かいました。整備計画の決定から43年目のことでした。

新たにH5系車両が導入されましたが、運用は東北新幹線と一体化され、列車名も「はやぶさ」「はやて」のままです。

11年後の2031年春には札幌開業が控えます。新青森開業からの10年を考えると、あつという間の開業と言えます。



見学時間 9:00~17:00(入場は閉館の30分前まで)  
 休館日 毎月第4月曜日(祝日の場合は翌日)、12月29日~1月1日  
 ※臨時休館2020年11月15日~20日  
 観覧料 一般 410円(330円)/高校・大学生等 200円(160円)/  
 中学生以下 無料  
 ※( )内は20名以上の団体料金  
 ※特別展は別料金。展示内容により変更する場合があります。  
 ※個人観覧者は、青森県立美術館のチケット表示で割引特典あり。  
 (詳しくは各施設のチケットカウンターまでお問合せください。)  
 〒038-0031 青森市三内字丸山305  
 TEL.017-766-8282 / FAX.017-766-2365  
 URL https://sannaimaruyama.pref.aomori.jp

縄文 芸術  
 三内丸山遺跡センター 青森県立美術館  
  
 三内丸山遺跡センター

青森県立美術館  
 開館時間 9:30~17:00(入場は16:30まで)  
 休館日 毎月第2、第4月曜日(祝日の場合は翌日)及び年末・年始  
 ※企画展開催時、展示替え等により変更する場合があります。  
 観覧料 一般 510円(410円)/高校・大学生 300円(240円)/  
 小学生・中学生 100円(80円)  
 ※( )内は20名以上の団体料金  
 ※企画展は別料金。展示内容により変更する場合があります。  
 ※個人観覧者は、三内丸山遺跡センターのチケット表示で割引特典あり。  
 (詳しくは各施設のチケットカウンターまでお問合せください。)  
 〒038-0021 青森市安田字近野185  
 TEL.017-783-3000 / FAX.017-783-5244  
 URL http://www.aomori-museum.jp

新青森駅 → 三内丸山遺跡センター: 循環バス「ねぶたん号」(東口) 約20分・300円、タクシー(南口) 約10分・1,000円前後、徒歩約30分  
 → 青森県立美術館: 「ねぶたん号」(東口) 約10分・300円、タクシー(南口) 約12分・1,200円前後、徒歩約40分

Facebook ページ Instagram アカウント  
 <ネット情報>  
 Facebook ページとInstagram アカウントを開設し、独自の記事・情報を掲載しています。ご意見をお寄せ  
 下さい。また、PDF 版を青森西高校ホームページ (http://www.aomorinishi-h.asn.ed.jp/) に掲載しています。いずれも、右側のQRコードからご覧いただけます。  
 ☆このニュースレターは、青森大学社会学部・榎引研究室が企画・制作し、文責を負っています。お問い合わせ、ご意見等は下記連絡先へお願いします。  
 〒030-0943 青森市幸畑 2-3-1 青森大学社会学部  
 榎引素夫 電話 017-738-2001 内線 731  
 FB ページ Instagram 青森西高校 ホームページ



地域・駅・新幹線ニュースレター

# はっしん！新青森



青森県立青森西高等学校

Aomori Prefectural Aomori Nishi Senior High School



青森大学  
AOMORI UNIVERSITY

2020年12月5日(土)  
号外 【FREE】

青森大学・青森西高等学校  
高大連携事業  
協力：JR 東日本青森駅  
〔青森学術文化振興財団助成事業〕

# 東北新幹線全線開通・新青森開業 10周年



## 新青森駅・工藤富士雄駅長

# 安全・安心、快適な旅を

1972年6月に東北新幹線盛岡以北基本計画が決定してから実に38年半、国や青森県、沿線自治体関係者の皆さまの努力によって、2010年12月4日に実現いたしました。そして、東北新幹線が全線で開業し本日で10周年を迎えることができました。

この間、皆さまの温かなご支援により、ご利用頂くお客さまも年々増えており、この紙面をお借りし感謝申し上げます。今後も新青森駅社員一同、安全・安心で快適な新幹線の旅をご提供いたします。



写真左は東北新幹線が  
八戸開業を迎えた2002  
年当時の新青森駅・奥  
羽本線ホーム。写真中は  
2010年12月4日早朝、  
新青森駅11番ホームに  
入線する東京行きの一  
列車「はやて12号」。  
写真右は2020年2月、  
新青森駅に到着した、次  
世代新幹線開発に向けた  
試験車両「ALFA-X」(ア  
ルフ・エックス)



「駅を起点にした情報発信とおも

青森西高校「おもてなし隊」がゆく《号外編》

# これからも人々をつなげたい

隊長・木村明日香さん（3年）

10年前、駅開業とともに始まったおもてなし活動。多くの西高生が利用する新青森駅は、身近で思い出もたくさんある場所です。おもてなし隊は、特に今年、駅長さんをはじめの方々と相談し、私たちができていることを考え、カウントダウンイベントを実施してきました。先輩方が築き上げ、つないできた活動を12月5日の10周年記念イベントでもできることは光栄だと感じています。

駅長さんをはじめ、駅の方々、地域の皆さまの応援や御協力に感謝する気持ちを忘れず、これからもおもてなし活動を続け、人々をつなげていけたらと思っています。

東北新幹線は2010年12月4日、八戸-新青森間が開業し、全線開通しました。1972年の基本計画決定から38年目でした。

## 10周年

東京-新青森間を「はやて」が3時間20分で結び、2011年3月にE5系「はやぶさ」が投入され、東京-新青森間は2時間59分まで短縮されました。

## プレミアム・ビュー・アオモリ

## 「新青森駅発」特選ミニ動画集



青森県内外の美しい光景を、ドローンを駆使して撮影した、各1分ほどの動画集です。

- 【寒立馬】  
(東通村・尻屋崎)
- 【種差海岸】  
(八戸市・太平洋岸)
- 【十和田湖】  
(青森・秋田県境)
- 【仏ヶ浦】  
(佐井村・下北半島)
- 【菜の花畑】  
(横浜町・下北半島)

- 【八甲田の樹氷】  
(青森市)
- 【高山稻荷神社】  
(つがる市・赤い鳥居)
- 【函館】  
(津軽海峡の対岸)
- 【深浦おおいちょう】  
(ビッグ・イエロー)
- 【アゲハチョウ】  
(むつ市の夜景)

- 【鶴の舞橋】  
(鶴田町)
- 【北限のハス】  
(平川市・猿賀公園)
- 【中野もみじ山】  
(黒石市)
- 【階段国道】  
(外ヶ浜町・龍飛崎)
- 【田んぼアート】  
(田舎館村)



Facebook ページ  
Instagram アカウント

＜ネット情報＞

Facebook ページとInstagram アカウントを開設し、独自の記事・情報を掲載しています。ご意見をお寄せ



下さい。また、PDF 版を青森西高校ホームページ（<http://www.aomorinishi-h.asn.ed.jp/>）に掲載しています。いずれも、右側のQRコードからご覧いただけます。

☆このニュースレターは、青森大学社会学部・柳引研究室が企画・制作し、文責を負っています。お問い合わせ

合わせ、ご意見等は下記連絡先へお願いいたします。

〒030-0943 青森市幸畑 2-3-1 青森大学社会学部

柳引素夫 電話 017-738-2001 内線 731



FB ページ



青森西高校 ホームページ



Instagram





# はっしん！ 新青森



青森県立青森西高等学校  
AOMORI PREFECTURAL AOMORI WEST SENIOR HIGH SCHOOL



青森大学  
AOMORI UNIVERSITY

青森大学・青森西高等学校  
高大連携事業  
協力：JR 東日本新青森駅  
〔青森学術文化振興財団助成事業〕

## 東北新幹線全線開通 10 周年

青森西高校「おもてなし隊」がゆく⑱

### 新青森駅で記念セレモニー

東北新幹線は2020年12月4日、全線開通・新青森駅開業10周年を迎え、記念セレモニーが翌5日、新青森駅の新幹線コンコースで行われました。また、青森県庁には4日、記念の横断幕が掲示されました。

青森県立青森西高等学校「おもてなし隊」隊長の木村明日香さんが一日駅長を務め、工藤富士雄駅長らとともに、くす玉を割りました。続いてビッグ・クリスマスツリーが点灯され、約40人のおもてなし隊員やJR東日本社員らが、2年生の隊員が制作した7種類のリーフレット「観光大使新聞」や記念品、「はっしん！新青森」の10周年記念号外を新幹線利用者プレゼントしました。このほか、新青森駅ではE5系のミニ新幹線乗車会、ねぶた囃子演奏、プラレールのジオラマ展示などが行われました。クリスマスツリーや横断幕は12月25日まで飾られています。

#### 青森県庁に記念の横断幕



#### 新青森駅・工藤富士雄駅長

### 安全・安心、快適な新幹線の旅を

1972年6月に東北新幹線盛岡以北基本計画が決定してから実に38年半、国や青森県、沿線自治体関係者の皆さまの努力によって、2010年12月4日に実現いたしました。そして、東北新幹線が全線で開業し本日で10周年を迎えることができました。

この間、皆さまの温かなご支援により、ご利用頂くお客さまも年々増えており、この紙面をお借りし感謝申し上げます。今後も新青森駅社員一同、安全・安心で快適な新幹線の旅をご提供いたします。

★写真左は東北新幹線が八戸開業を迎えた2002年当時の新青森駅・奥羽本線ホーム。写真中は2010年12月4日早朝、新青森駅11番ホームに入線する東京行きの一歩列車「はやて12号」。写真右は2020年2月、新青森駅に到着した、次世代新幹線開発に向けた試験車両「ALFA-X」(アルファ・エックス)



### クリエイト 久保田理事長 まちは生き物、10年後を楽しみに



2010年12月の東北新幹線全線開通・新青森開業は、まちに多くの波をもたらしました。

最も目覚ましい変化の一つは、当時の高校生たちの自主的な開業記念イベントを契機に生まれた特定非営利活動法人(NPO法人)「あおもり若者プロジェクト クリエイト」です。

大人や大学生が高校生をトレーニングしながら、まちの現状と未来について考える通年型社会教育プログラム「クリエイトまち塾」などの活動が高く評価され、2016年度の「未来をつくる若者・オブ・ザ・イヤー」

で内閣府特命担当大臣表彰を受けました。10年目の感想、抱負を久保田圭裕理事長に聞きました。

10年ひと昔といいますが、あっという間の10年に感じます。昔というほどではなく、最近の出来事のように。とはいえ、新青森駅に入るテナントも、まちなかのテナントも入れ替わっていることに気づき、時間の経過と、流行や時代の変化を感じます。

新型コロナウイルスによって、イベント集客などを通じた観光まちおこしが難しくなるなど、これまでの常識が効かなくなってきました。

だからこそ、まち・地域の資源をフルに活用したアイデアや取り組みが求められています。地元のさまざま

な魅力を、見つめ直す必要性を痛感しています。「新しい生活様式」が求められる中、新たな工夫の余地がどんどん出てくる予感があります。オンラインや「非接触」を前提にした活動、テレワークをベースにした働き方やライフスタイル…。

新青森駅は「何もない駅」と言われながら、青森西高校の「おもてなし隊」など、若い人たちが新幹線とまちづくりに関わっている姿をみても、新しい「まち」の様子の最前線にいるのでは、と感じます。

今度は青森駅が、コンパクトな駅舎に生まれ変わります。「まちは生き物」とよくいわれます。また10年後、新青森駅や青森駅、そして青森はどのような変化を遂げているのか、非常に楽しみに感じています。

# 阿部合成展 開幕

## 青森県立美術館

### 生誕110周年記念 修羅をこえて～「愛」の画家

青森市浪岡出身の画家・阿部合成（あべ・こうせい＝1910～1972年）の生誕110周年を記念する企画展「阿部合成展 修羅をこえて～『愛』の画家」が青森県立美術館で始まりました。2021年1月31日（日）まで、約200点の油彩作品などを展示し、「修羅の画家」と呼ばれた彼の足跡を描きます。

阿部合成は浪岡村に生まれ、旧制青森中学では作家・太宰治と親交の間柄になりました。卒業後に京都市立絵画専門学校で日本画を学び、1938年、出征兵士を見送る人物群を描いた「見送る人々」（兵庫県立美術館蔵・写真上）で二科展に入選しました。しかし、「反戦画家」の批判を浴びて画壇を離れ、さらには出征と

シベリア抑留を経て、1947年に帰還します。その後、2度のメキシコ滞在を通じ、日本画とメキシコの壁画の要素を採り入れ独特の画風をつくり上げ、死や鎮魂、祈りを感じさせる作品を描くようになりました。

11月28日の開幕日にはオープニング・セレモニーが行われ、阿部合成の長男の陶芸家・阿部和唐さんがテープカットしました。来場者は、重厚で少しもの悲しいながらもむなむなしい視点を感じさせる作品群に見入り、時代の激しい波にもまれながら苦悩と祈りに向き合った画家の足跡を確かめていました（写真下）。

企画展の観覧料は一般1,500円、大学生・高校生1,000円、中学生以下は無料です。



## 三内丸山遺跡 れすとらん 五千年の星

### 青森県産ホタテ・古代米「発掘プレート」人気

青森市・三内丸山遺跡の「れすとらん 五千年の星」が開発した新メニュー「発掘プレート」が人気を集めています。青森県産ホタテと香ばしく歯ごたえのある「縄文古代米」を使用して地元らしさをアピール。1日30食限定で、早ければ昼には完売になる好評ぶりです。

「発掘プレート」は、炊き込みご飯に県産ホタテのソテーと甘露煮、それに「貝焼きみそ」（ホタテのみそ汁を卵でとじたもの）をセットにしたメニューです。ソテーは大ぶりの、甘露煮と貝焼きみそは小ぶりのホタテを使っており、味わいや歯ごたえの違いを楽しめます。みそ汁付きで980円、地元でもこの価格で3種類

のホタテを味わえるメニューは珍しいといえます。

「五千年の星」はもともと和食が主でしたが、今年、新型コロナウイルス感染拡大の影響で2カ月間、休業を余儀なくされた際、「地元の人にも気軽に訪れてもらえるように」とカフェ風のメニューを考案しました。

炊き込みご飯には「秘密の具」が隠れていて、ハマグリ貝殻が「発掘」されたら、特製の「そふと栗夢」（栗を使ったソフトクリーム）がプレゼントされます。

成田夏実店長は「ぜひ、広大な遺跡を見学した後で、くつろぎながら食べていただきたい」と話しています。ほかにもりんごカレー、十五穀米と縄文古代米を使ったおにぎりプレートなどがあります。



## プレミアム・ビュー・オブ・アオモリ④

### 田んぼアート、高山稲荷、鶴の舞橋

JR東日本が制作した特選「新青森駅発」ミニ動画「プレミアム・ビュー・オブ・アオモリ」全15編の第4弾です。冬にちなんだ光景の作品に焦点を当てました。当ニュースレターのQRコードからの限定公開です。

【田んぼアート】津軽平野に位置する田舎館村は、さまざまな色の稲で田んぼに絵を描く「田んぼアート」で知られています。さらに最近は、降り積もった雪の上を人が歩いて模様を作る「冬の田んぼアート」（スノーアート）が人気を集めています。いずれも今シーズン

は中止となりましたが、この動画で、以前の様子をお楽しみ下さい。新青森駅から鉄道と車で約40分。

【高山稲荷】つがる市の日本海沿い、七里長浜近くにある神社です。多くの鳥居が居並ぶ光景が近年、人気を集めています。新青森駅から鉄道と車で約130分。

【鶴の舞橋】吉永小百合さんがこの橋をバックに撮ったJR東日本のポスターで一躍、脚光を浴びました。鶴田町にあり、木造の「三連太鼓橋」としては、日本で最も長い橋です。新青森駅から鉄道で約60分。



見学時間 9:00～17:00(入場は開館の30分前まで)

休館日 毎月第4月曜日(祝日の場合は翌日)、12月29日～1月1日  
※臨時休館2020年11月15日～20日

観覧料 一般410円(330円)/高校・大学生等200円(160円)/中学生以下 無料

※( )内は20名以上の団体料金  
※特別展は別料金、展示内容により変更する場合があります。  
※個人観覧者は、青森県立美術館のチケット表示で割引料あり。  
(詳しくは各施設のチケットカウンターまでお問い合わせください。)

〒038-0031 青森市三内丸山305  
TEL.017-768-8262 / FAX.017-768-8365  
URL <https://sannaiamaruyama.pref.aomori.jp>

三内丸山遺跡センター

縄文 芸術

三内丸山遺跡センター

開館時間 9:30～17:00(入場は16:30まで)

休館日 毎月第2、第4月曜日(祝日の場合は翌日)及び年末・元日  
※企画展開催時、展示内容により変更する場合があります。

観覧料 一般510円(410円)/高校・大学生300円(240円)/小学生・中学生100円(80円)

※( )内は20名以上の団体料金  
※企画展は別料金、展示内容により変更する場合があります。  
※個人観覧者は、三内丸山遺跡センターのチケット表示で割引料あり。  
(詳しくは各施設のチケットカウンターまでお問い合わせください。)

〒038-0021 青森市安田字近野185  
TEL.017-783-3000 / FAX.017-783-5244  
URL <http://www.aomori-museum.jp>

青森県立美術館

新青森駅 ⇒ 三内丸山遺跡センター：循環バス「ねぶたん号」(東口)約20分・300円、タクシー(南口)約10分・1,000円前後、徒歩約30分  
⇒ 青森県立美術館：「ねぶたん号」(東口)約10分・300円、タクシー(南口)約12分・1,200円前後、徒歩約40分

Facebook ページ Instagram アカウント

<ネット情報>  
FacebookページとInstagramアカウントを開設し、独自の記事・情報を掲載しています。ご意見をお寄せ

下さい。また、PDF版を青森西高校ホームページ(<http://www.aomorinishi-h.asn.ed.jp/>)に掲載しています。いずれも、右側のQRコードからご覧いただけます。

☆このニュースレターは、青森大学社会学部・楡引研究室が企画・制作し、文責を負っています。お問い合わせ

合わせ、ご意見等は下記連絡先へお願いします。  
〒030-0943 青森市幸畑2-3-1 青森大学社会学部  
楡引素夫 電話 017-738-2001 内線 731

FB ページ Instagram

青森西高校 ホームページ



# はっしん！ 新青森



青森県立青森西高等学校  
Aomori Institute of Technology



青森大学  
AOMORI UNIVERSITY

2021年1月10日(日)  
第18号 [FREE]

青森大学・青森西高等学校  
高大連携事業  
協力：JR東日本新青森駅  
〔青森学術文化振興財団助成事業〕

## 新青森駅をにぎわいの場に

### 小野寺さん、10周年イベント企画担当

#### 記念オリジナルキャラクター

#### 「りんちゃん」誕生

東北新幹線・新青森駅開業 10周年を記念して、新青森駅のオリジナルキャラクターが誕生しました。



名前は「りんちゃん」、青森ねぶた祭の「跳ね人」が身に付けている鈴とリングにちなんで命名されました。誕生日は新青森駅開業の2010年12月4日という設定です。同駅に2020年6月まで勤務していた中田真由さんがデザインしました。

新青森駅10周年を祝うのほかに描かれているほか、駅の待合室などにポスターが掲示されています。

東北新幹線は2020年12月4日、全線開通・新青森駅開業10周年を迎え、新たな時代へ踏み出しました。新青森駅のサービス推進委員リーダーとして、10周年プロジェクトに携わってきたのが同駅の小野寺希(のぞみ)さん。「駅が地域のにぎわいの場になるように」と決意を新たにしています。

小野寺さんは入社5年目、新青森駅に勤務して2年目です。若手7人で行くサービス推進委員の先頭に立ち、「20年目に向けて決意を示そう」と、2020年4～12月のイベントと10周年の記念イベントを企画してきました。

「新型コロナウイルスの影響で、どんな企画ができるか試行錯誤を重ねました。さまざまなイベントが中止になる中、私たちにとっても特別な10周年という節目に、地域の皆さまに感謝を伝えたい」と振り返ります。記念イベントの当日は多くの駅利用者の笑顔に接することができ、手がけたミニ新幹線乗車体験も盛況で「10周年おめでとう！」と声をかけられたことが良い思い出になったそうです。

1月4日からは、青森西高等学校など受験生の応援企画として合格祈願の絵馬コーナーを開設、工藤富士雄駅長のメッセージも掲示して、地域とともに歩む駅づくりを目指しています。



#### 青森西高校「おもてなし隊」がゆく⑱

## オンラインで交流会、ワールドカフェ

青森西高校「おもてなし隊」隊員と家庭クラブ員が2020年12月20日、青森県内の団体が開いた第7回学生団体交流会と第10回ワールドカフェに参加しました。今回はともに初のオンラインでの開催となり、参加した同校の生徒らは活発に意見を交わしていました。

学生団体交流会は、青森県教育委員会の「大学生とカタル！キャリア形成サポート事業」に携わる「キャリアサポ連合」が主催し、約60人が参加しました。ワールドカフェは青森県内の学生がつくる「学生団体レスタ」が「アイノカタチ」をテーマに開催、学生や社会人約50人が参加しました。

西高校の会場には生徒29人が集まり、5グループに分かれてパソコンを囲みました。

学生団体交流会について、2年の飯村歩夏さんは「日頃の生活では知ることのできない大学生の活動について

を知ることができた。いつもきれいに保たれている駅前アーケード周辺は、清掃活動している方がいたからなのだと感じ、尊敬しました」と感想を語りました。

ワールドカフェについて、同じく2年の米谷悠里さんは「様々な年代の方と1つのテーマでお話でき、新しい考え方の発見にもつながって有意義でした。オンラインは初めてでしたが、とても楽しかった」と話しました。「リアルと違った楽しみ方があった。緊張せず、話しやすかった」(2年・斉藤運さん)という声も。

レスタの須藤芹菜代表(青森大学3年)は「オンラインでの開催には不安があった。しかし、今回やってみてオンラインでも交流ができることがわかった。高校生には若いうちにさまざまな価値観と触れ合ってもらいたい。青森西高生は積極的に学内外の活動に参加していて意識が高いと感じた」と振り返っていました。



#### プレミアム・ビュー・オブ・アオモリ⑤

## 八甲田の樹氷、函館、日本一の菜の花

JR東日本が制作した特選「新青森駅発」ミニ動画「プレミアム・ビュー・オブ・アオモリ」全15編の第5弾、最終回です。冬景色2本、そして冬の向こうに待つ「菜の花」畑の動画をご紹介します。いずれも当ニュースレターのQRコードからの限定公開です。

【八甲田の樹氷】青森県の中央に位置する八甲田連峰。燃えるような秋の紅葉から、真っ白な樹氷の季節へ、雄大な景観をどうぞ。新青森駅から車で約60分。

【函館】北海道新幹線で新青森駅とつながる、日本有数の観光都市です。縄文時代から、函館市を中心とする道南地域は、青森県と深い結びつきがありました。函館山からの夜景、五稜郭の四季を描いています。新青森駅から鉄道で約100分。

【日本一の菜の花】まさかこの形をした北半島の「柄」の部分に当たるのが横浜町です。見渡す限りの菜の花畑で知られます。新青森駅から電車と車で約120分。



# 阿部合成展 修羅をこえて～「愛」の画家 矛盾に向き合い希望の境地へ

## 青森県立美術館・池田課長に聞く

青森市浪岡出身の画家・阿部合成(あべ・ごうせい=1910～1972年)の生誕110周年を記念する企画展「阿部合成展 修羅をこえて～「愛」の画家」が青森県立美術館で1月31日(日)まで開かれています。過去最大規模、約230点もの油彩作品などから見えてくる「修羅の画家」の姿を、同館の池田亨・美術企画課長にうかがいました。

今回の企画展は、年代ごとに作品を並べるのではなく、画家がこだわって描いたテーマごとにまとめて展示してあります。「回顧展としては珍しい構成」と池田課長は解説します。

展示室の順に、「折りと鎮魂」、「故郷と家族」、「愛するものたち～様々な主題」、「海を見る詩人～太宰治、山岸外史、文学者たち」、「メキシコ、サーカス、道化」といったテーマで作品群が並びます。

「阿部合成は牛や猫、アザミ、カラスといった題材を繰り返し描いています。特に牛やカラスの姿は、社会に向き合い奮闘する自画像的な印象があります」

自身を描いた自画像も、デッサンを含めて13点展示しています。「メキシコ渡航など人生の節目節目で、自分自身を確かめていたのでしょうか」と池田課長。

作品群からは、彼の抱え込んでいた多くの矛盾が浮かび上がるといいます。社会と個人、キリスト教と神道、日本と西洋。代表作「見送る人々」が本意に反して「反戦画家」の批判につながったこと。特に、貧しい人々に共感して絵を描きながらも、自らは地主の家に生まれていたこと。その矛盾の中でどう生きるべきかを考え続けていたのでは、といえます。

「それでも、彼は友人に恵まれていた。つらい時には彼に手を差し伸べ、亡くなった後も、皆が定期的にま



どまった個展を開き、作品を守り続けてきた。とてもカリスマ性があり、ウルトラマンの造形で知られる成田亨など若い画家たちにも慕われていました」

うち捨てられた船や流木など、うら寂しいモチーフも少なくありません。しかし、晩年の作品の多くは地平線が描かれ、その向こうにほのかな光が浮かんでいます。「彼が最後にたどり着いた、希望の境地かもしれない」と池田課長は読み解きます。

※写真左上は池田課長、写真上は《あざみ》(1948年、青森市蔵)



## 音楽劇「4枚の絵」プレコンサート 1月30日・31日開催

青森県立美術館は2021年度、バレエ作品「アレコ」に使用されたマルク・シャガール作の舞台背景画にちなみ、音楽劇「4枚の絵」を開催します。1月30日(土)、31日(日)の2日間、同館アレコホールで、音楽劇に出演予定の演奏家を招きプレコンサートを開催します。

高実希子(ピアノ)、三上亮(バイオリン)、大山平一郎(ピアノ)、金子鈴太郎(チェロ)の4氏がチャイ

コフスキーのピアノ三重奏曲などを演奏します。初の試みとして、ライブ配信も行います。

チケットは一般3,000円、学生2,000円で全席(90席)指定、ライブ配信チケットは1,500円。詳しくは同館ホームページをご覧ください。



## 景観からみた東北新幹線 三内丸山遺跡を守りルート変更

東北新幹線は青森市街地の南側を通り、大きくカーブしながら終点・新青森駅へ向かいます。地図・写真。このカーブを地図や高台から見ると、やや複雑な形をしています。そのルートには、三内丸山遺跡の保存への歴史が関わっています。

三内丸山遺跡周辺は江戸時代から、土器が出土することで知られていました。しかし、東北新幹線の建設構想が持ち上がり、さらに現在の位置に駅が建設される計画ができた時は、遺跡の保存は話題に上りませんでした。1985年には、遺跡付近を経由する新幹線ルートが決まりました。ただ、工事は長く棚上げされ、着工が正式に決まったのは1998年のことでした。この間、三内丸山遺跡に県営野球場が建設されることにな

り、発掘調査が行われました。その結果、貴重な出土品や遺構が多数見つかり、1994年に遺跡の保存が決まりました。

そして、遺跡を守るため、着工の正式決定に合わせて、新幹線のルートも変更されました。

★参考：鉄道建設・運輸施設整備支援機構鉄道建設本部青森新幹線建設局「東北新幹線工事誌(八戸・新青森間)」



**三内丸山遺跡センター**

見学時間 9:00～17:00(入場は閉館の30分前まで)  
 休館日 毎月第4曜日(祝日の場合は翌日)  
 観覧料 一般410円(330円)/高校・大学生等200円(160円)/中学生以下無料  
 ※( )内は20名以上の団体料金  
 ※特別観覧は別料金。展示内容により変更する場合があります。  
 ※個人観覧者は、青森県立美術館のチケット窓口で観覧券(100円)を申請してください。  
 (詳しくは各施設のチケットカウンターまでお問合せください。)

お問合せ 〒038-0031 青森市三内丸山305  
 TEL.017-766-8282 / FAX.017-766-2365  
 URL https://saniamaruyama.pref.aomori.jp

**縄文 芸術**

三内丸山遺跡センター 三内 青森県立美術館

**青森県立美術館**

開館時間 9:30～17:00(入場は16:30まで)  
 休館日 毎月第2、第4曜日(祝日の場合は翌日)  
 ※企画展開催時、展示替えにより変更する場合があります。  
 観覧料 一般510円(410円)/高校・大学生300円(240円)/小学生・中学生100円(60円)  
 ※( )内は20名以上の団体料金  
 ※企画展は別料金。展示内容により変更する場合があります。  
 ※個人観覧者は、三内丸山遺跡センターのチケット窓口で観覧券(100円)を申請してください。  
 (詳しくは各施設のチケットカウンターまでお問合せください。)

お問合せ 〒038-0021 青森市安田字近野185  
 TEL.017-783-3000 / FAX.017-783-5244  
 URL http://www.aomori-museum.jp

新青森駅 → 三内丸山遺跡センター: 循環バス「ねぶたん号」(東口)約20分・300円、タクシー(南口)約10分・1,000円前後、徒歩約30分  
 → 青森県立美術館: 「ねぶたん号」(東口)約10分・300円、タクシー(南口)約12分・1,200円前後、徒歩約40分

**Facebook ページ Instagram アカウント**

<ネット情報>  
 FacebookページとInstagramアカウントを開設し、独自の記事・情報を掲載しています。ご意見をお寄せ

下さい。また、PDF版を青森西高校ホームページ(<http://www.aomorinishi-h.skn.ed.jp/>)に掲載しています。いずれも、右側のQRコードからご覧いただけます。  
 ☆このニュースレターは、青森大学社会学部・榊引研究室が企画・制作し、文責を負っています。お問い合わせ

合わせ、ご意見等は下記連絡先へお願いします。  
 〒030-0943 青森市幸畑2-3-1 青森大学社会学部  
 榊引素夫 電話 017-738-2001 内線 731

お問合せ **FB ページ** **Instagram** **青森西高校 ホームページ**



# はっしん! 新青森

青森県立青森西高等学校  
Aomori Prefecture Aomori West High School



青森大学  
AOMORI UNIVERSITY

青森大学・青森西高等学校  
高大連携事業  
協力：JR 東日本新青森駅  
〔青森学術文化振興財団助成事業〕

## 「ALFA-X」360km 運転へ走行試験



### 東北・北海道新幹線



### 長さ 22m の「鼻」で騒音軽減

JR 東日本が「次世代新幹線」開発のために製造した試験車両「ALFA-X」(アルファエックス)が、東北・北海道新幹線で走行試験を重ねています。最高速度・時速 360km での運転を目指し、2022 年 3 月まで試験が続く予定です。そのほか、現在は 260km となっている盛岡-新青森間の最高速度を 320km に引き上げる計画です。  
(写真左は新函館北斗側の先頭車両・10号車、上は ALFA-X のロゴマーク)

JR 東日本のリリースによると、「ALFA-X」の正式名称は「E956 形式新幹線電車」です。愛称の「ALFA-X」は、「Advanced Labs for Frontline Activity in rail eXperimentation」=最先端の実験を行うための先進的な試験室(車)=の頭文字などを取った呼び名です。

銀色の車体に入った薄い緑の帯は、自然と、都市間における人々の活発な行き交いを表しているそうです。最大の特徴は、東京方面の先頭・1号車と新函館北斗方

面の先頭・10号車とで形状が異なる、細長い「鼻」です。車両1両の長さ25mに対し、1号車は16m、10号車は22mもの鼻の長さです。「はやぶさ」に使われているE5系車両の鼻は15mなので、銀色のデザインと相まって、細長さが際立ちます。

1号車はE5系と同等の車内空間を確保、10号車はトンネル突入時に騒音を発生させる「圧力波」を抑える形を追求し、形状による効果の違いを確かめます。

また、JR 東日本は 2020 年 10 月、260km 運転を行っている盛岡-新青森間の最高速度を、盛岡から南と同じ 320km に引き上げる計画を発表しました。7 年程度の時間をかけて、騒音対策などを実施します。所要時間が最大 5 分程度、短縮されます。

これに先駆けて、2021 年春には、上野-大宮間の最高速度を 110km から 130km に引き上げ、所用時間を 1 分程度、短縮します。



写真左は東京側の先頭車両・1号車。写真中は1号車に描かれたロゴマーク。写真右は低騒音のパンタグラフ。JR 東日本のプレスリリースによると、地震発生時により早く止まれる、屋根に取り付けた「空力抵抗板ユニット」や、車両を脱線しにくくする「地震対策ダンパ」、走行時の揺れを抑える性能、さらには着雪しにくい車体構造など、多岐にわたる項目についてチェックします。

### 青森西高校「おもてなし隊」がゆく⑬

## 台湾高校生とのオンライン交流を準備

青森県立青森西高等学校「おもてなし隊」隊員たちは 2021 年 2 月 19 日、台湾の慈濟(じじい)大学附属高級中学校とのオンライン交流会を開きます。生徒たちは自作の「青森県を紹介する動画」を紹介予定で、年末以降、学習会を重ね、制作を進めています。

慈濟大学附属高級中学校の生徒たちは 2019 年 12 月、修学旅行で来県し、青森西高校の生徒たちと交流を深めました。2020 年 6 月には、西高校の生徒たちが、ぬふた衣装でマスクを作り、手紙を添えて同校に送るなど、交流を続けてきました。

生徒たちは青森市国際交流協会の斎藤誠子さんや西高校の英語指導助手シュルツ・ピクターさん、台湾から青森中央学院大学に留学している呂貞儀さんらの助言を受け、リンゴや食べ物などに関する動画を作成中。



鉄道の動画を手がけている 2 年の能登谷友喜さんは「動画が好きでよく作っています。BGM を特に工夫しました。もう少し文法を直した方がよいと分かったので、良い動画を完成させたい」と話していました。  
(写真左は呂さん、写真右の左端がピクターさん)

### 新青森駅長が感謝状

JR 東日本・新青森駅の工藤富士雄駅長は 2021 年 1 月 27 日、青森西高校を訪れ、東北新幹線全線開通・新青森駅開業 10 周年記念イベントをはじめとする 1 年間の企画への協力に対して、感謝状を贈呈しました。

同校「おもてなし隊」の木村明日香隊長(3年=中央)は、「私たちにとって大変貴重な体験となり、人生に役



に立つ学びの機会にもなりました。これからも、後輩たちが引き継いで活動していきます」とお礼を述べました。

## 三内丸山遺跡 企画展「イミテーション・ワールド」 ミニチュア、模倣から精神世界を探る

青森市の三内丸山遺跡で5月30日(日)まで、企画展「イミテーション・ワールド」が開かれています。縄文人の「模倣・まね」の様子を伝える、重要文化財4点を含む土器・土製品や石製品163点を展示。初紹介の出土品を交え、彼らの精神世界を探ります。

会場入り口で目を引くのは、高さ約60cmの縄文中期の深鉢型土器(重要文化財)と、約6cmの深鉢型ミニチュア土器です(写真左)。大きき10分の1のミニチュア土器は、きちんと文様を施してあります。

ミニチュア土器は祭りに使われたと考えられ、さまざまな形があります。硬い石材の磨製石斧(せきぶ)も、

柔らかい石材で作られた実用性のないミニチュア版が見つかっています(写真左下)。

人の足をかたどった口縁部を持つ土器(写真中)、人の顔や動物の姿を描いた土製品も展示。クマの牙を加工したペンダント(写真右下)は、身につけることで、クマの強さにあやかりうとしたのかもしれない。

また、レプリカと本物の出土品を見分けるクイズコーナーも。企画展は入場料だけで見学できます。

このほか、縄文晩期を中心に、休館中の青森県立郷土館の収蔵品と、県内出土の奈良国立博物館の収蔵品を紹介する展示も、2月21日(日)まで行われています。



## 青森県立美術館

# コレクション展 2020-4 : 危機の中の芸術家たち 気候変動、コロナ時代を生きる手がかりを考える

青森県立美術館で2月23日(火・祝)まで「コレクション展 2020-4 : 危機の中の芸術家たち」が開かれています。世界が気候変動や新型コロナウイルス感染症の危機に直面している今、青森県出身・ゆかりの芸術家たちが、時代やそれぞれの危機にどう向き合い、新たな表現や世界を切り開いたかを振り返ることで、私たち自身が生き延びるための手がかりを考える趣旨です。

「考現学」の創始者として知られる今和次郎と、その弟で画家・版画家の今純三は、ともに弘前市に生まれ、東京移住後、関東大震災に遭いました。和次郎は「バラック装飾社」をつくって仮設住居の調査を始め、被災者の店や住まいの外観の装飾を手がけました(写真左)。純三の作品は、震災後の風景などに加え、黒石市にあった「黒石劇場」の舞台背景画を制作した際の下絵を紹介しています。

野辺地町生まれの彫刻家・小坂圭二は、太平洋戦争に従軍し、さらにキリスト教の洗礼を受けた経験を反映した作品3点が展示されています。代表作「世界の破れを担うキリスト」(写真右、1970年)は、地球に



も見える裂けたザクロにキリストの姿を重ね、神と人が調和する「恩寵空間」を目指した作品として紹介されています。

2020年に没後30年を迎えた五所川原市・弘前市ゆかりの現代芸術家・工藤哲巳の作品群は、環境汚染や社会の電子化をあらためて意識させ、人間や文明のありようを強く問いかけてくるようです。

企画を担当した学芸員の奥脇嵩大さんは「県外からの作品の移動が困難な状況で、収蔵品をいろいろな切り口で紹介していきたい。危機の時代に美術館はどう対応するか、という実践でもある」と話しています。



見学時間 9:00~17:00(入場は開館の30分前まで)

休館日 毎月第4月曜日(祝日の場合は翌日)

観覧料 一般410円(330円)/高校・大学生等200円(160円)/中学生以下無料

※「」内は20名以上の団体料金  
※特別展は別料金。展示内容により変更する場合があります。  
※個人観覧者は、青森県立美術館のチケット表示で割引特典あり。  
(詳しくは各施設のチケットカウンターまでお問合せください。)

お問合せ 〒038-0031 青森市三内丸山305  
TEL.017-766-8282 / FAX.017-766-2365  
URL <https://sannaimaruyama.pref.aomori.jp>



三内丸山遺跡センター

## 縄文 ⇄ 芸術

三内丸山遺跡センター ミニチュア 青森県立美術館



青森県立美術館

開館時間 9:30~17:00(入場は16:30まで)

休館日 毎月第2、第4月曜日(祝日の場合は翌日)

※企画展開催時、展示替等により変更する場合があります。

観覧料 一般510円(410円)/高校・大学生300円(240円)/小学生・中学生100円(80円)

※「」内は20名以上の団体料金  
※企画展は別料金。展示内容により変更する場合があります。  
※個人観覧者は、三内丸山遺跡センターのチケット表示で割引特典あり。  
(詳しくは各施設のチケットカウンターまでお問合せください。)

お問合せ 〒038-0021 青森市安田字近野185  
TEL.017-783-3000 / FAX.017-783-5244  
URL <http://www.aomori-museum.jp>



新青森駅 → 三内丸山遺跡センター: 循環バス「ねぶたん号」(東口) 約20分・300円、タクシー(南口) 約10分・1,000円前後、徒歩約30分  
→ 青森県立美術館: 「ねぶたん号」(東口) 約10分・300円、タクシー(南口) 約12分・1,200円前後、徒歩約40分

## Facebook ページ Instagram アカウント

<ネット情報>

Facebook ページと Instagram アカウントを開設し、独自の記事・情報を掲載しています。ご意見をお寄せ



下さい。また、PDF版を青森西高校ホームページ(<http://www.aomorinishi-h.asn.ed.jp/>)に掲載しています。いずれも、右側のQRコードからご覧いただけます。

☆このニュースレターは、青森大学社会学部・楳引研究室が企画・制作し、文責を負っています。お問い合わせ、ご意見等は下記連絡先へお願いします。

〒030-0943 青森市幸畑2-3-1 青森大学社会学部 楳引素夫 電話 017-738-2001 内線 731

FB ページ



青森西高校



Instagram

ホームページ

# はっしん! 新青森

青森県立青森西高等学校  
Aomori Prefectural Aomori Nishi Senior High School

青森大学  
AOMORI UNIVERSITY

青森大学・青森西高等学校  
高大連携事業  
協力：JR 東日本新青森駅  
〔青森学術文化振興財団助成事業〕

## 青森駅 新駅舎 3月27日使用開始

### 現駅舎の跡地に 10階建て駅ビル

1959(昭和34)年から使用されてきた青森駅の第4代駅舎が、3月26日(金)で役割を終えます。新しい駅舎と、一体化して造られた駅の東西を結ぶ自由通路が、翌3月27日(土)に使用を開始します。第4代駅舎は新年度に取り壊され、その跡地に10階建ての駅ビルが建設されることになりました。

青森駅は1891(明治24)年に開業しました。移設や戦災を経て、1959年12月に現在の第4代駅舎が開業。60年余りの間、市民に親しまれ、2019年には「還暦プロジェクト」が展開されました。

この年、青森市のNPO「あomorい〜な」がクラウドファンディングで資金を集めて、駅前を花で飾る活動を展開しました。その様子は、当ニュースレター創刊号(2019年6月10日発行)でも紹介しました。

JR 青森駅は、市民に名残を借しんでもらおうと、青森駅にちなんだ「思い出写真展」を3月下旬まで、駅東口待合室で開催中です。懐かしい駅前や列車の光景、旅のひとつコマなど、県内を中心に全国から寄せられた作品と、青森駅の関係者が撮影した約100点を、メッセージとともに見ることが出来ます。

新しい駅ビルには、商業施設やホテルが入居するほ

か、青森市新町にある市民美術展示館が移設されます。また、青森県などが世界遺産登録を目指す北海道・北東北の縄文遺跡群の情報発信拠点も整備されます。



新設された東西自由通路(写真上、駅西口から撮影)と第4代の現駅舎(写真下)。写真右は青森駅東口待合室で開催中の写真展



「ガニ線」は、沿線の人々が親しみを込めて津軽線と呼ぶ愛称です。「ガニ線カード」は青森大学生が発案し、JR 東日本盛岡支社、外ヶ浜町、今別町と協力して制作しました。

全部で8種類あり、津軽線を支える乗務員等4人と両町の代表各1人、そして青森大学生2人が登場して、津軽線への思いを語っています。裏面には、間もなく運用が終る車両「キハ40系」の写真をあしらいました。4者が進める「JR 津軽線プロジェクト」の一環として制作されました。

### JR 津軽線プロジェクト

### 青森大生「ガニ線カード」制作

4月に始まる大型観光キャンペーン「東北デスティネーションキャンペーン」に合わせ、JR 津軽線をアピールする「ガニ線カード」が誕生しました。3月31日(水)まで、青森駅で配布されています。

「ガニ線」は、沿線の人々が親しみを込めて津軽線と呼ぶ愛称です。「ガニ線カード」は青森大学生が発案し、JR 東日本盛岡支社、外ヶ浜町、今別町と協力して制作しました。

全部で8種類あり、津軽線を支える乗務員等4人と両町の代表各1人、そして青森大学生2人が登場して、津軽線への思いを語っています。裏面には、間もなく運用が終る車両「キハ40系」の写真をあしらいました。4者が進める「JR 津軽線プロジェクト」の一環として制作されました。

カードは各250枚、計2,000枚を青森駅東口改札で配布します(3月27日以降は青森駅新駅舎改札で配布)。ただし、なくなり次第、終了となります。

JR 東日本はこのほか、津軽線のキャラクター「津軽蟹夫」ファミリーが登場するPRポスターを、東北エリアに掲出します。

★詳しい情報はJR東日本のニュースリリースをご覧ください(津軽線の魅力発信! 新作「津軽づくし弁当」の販売開始とガニ線カードを配布します!) = [https://www.jreast.co.jp/press/2020/morioka/20210215\\_mr14.pdf](https://www.jreast.co.jp/press/2020/morioka/20210215_mr14.pdf)、2021年2月15日)

★津軽線プロジェクトのホームページ = <https://www.aomori-u.ac.jp/jr-tsugarusen-project/> = 青森大学ホームページ)

## 北海道新幹線 開業5周年 2031年春の札幌延伸目指す

2016年3月26日、北海道新幹線の青森-新函館北斗間約148.8kmが開業を迎えました。今年はそのから5周年に当たります。北海道側では新函館北斗-札幌間211.5kmの工事が進み、2031年春の開業を目指しています。

北海道新幹線は2005年に着工し、10年余りで開業にこぎつきました。東北新幹線と一体化して運用され、列車名も共通の「はやぶさ」を使用しています。新青森駅のホームでは、JR北海道とJR東日本の乗務員が交代する様子を見ることが出来ます。

青函トンネル区間については線路が在来線と共用となっているため、最高速度が時速140kmに抑えられていました。

しかし、2019年3月から一部の列車が160km運転を開始し、東京-新函館北斗間の所要時間が最短4時間2分から3時間58分へと短縮されました。

さらに、2020年12月から2021年1月にかけては、一部の列車で210km運転を実施し、一時的ながら所要時間を短縮しました。

JR 東日本が開発した高速走行の試験車両「ALFA-X」



(アルファエックス)が北海道新幹線区間にも乗り入れており、札幌延伸に向けて、さらなるスピードアップに期待が掛かります。

【参考】

青森西高校「おもてなし隊」がゆく②

# 笑顔と感謝、相手の目を見て活動を 10年の節目 卒業生が後輩に引き継ぎ

青森県立青森西高等学校の「おもてなし隊」は2月末、2020年度の活動を終えた3年生が、後輩に引き継ぎを行いました。

隊長として、数々の場面で生徒たちを引っ張ってきた木村明日香さん(3年)は、ともに3年で副隊長の青山優花さん、赤平麗紋さんと一緒に、卒業する隊員からのメッセージを、2年生の楢引深咲さんに手渡ししました。

木村さんは3年間を振り返って「恥ずかしがらず、自分が楽しむことが大切。明るく笑顔で、また、感謝の気持ちを持つこと」とポイントを伝えました。また、「おもてなし隊のはっぴを着て歩いていると声をかけられることもあり、先輩から受け継いだ活動をたくさんの人に知っていただけることがうれしく思えた。おも

てなし隊だからこそできる経験はたくさんある。自分の成長につなげて、さまざまなことに挑戦してほしい」とエールを送りました。

「おもてなし隊」は東北新幹線が全線開通した2010年に活動を開始し、本年度が創設10周年の節目でした。しかし、新型コロナウイルス感染症の拡大のため、青森ねぶた祭やクルーズ船寄港など例年、活躍してきた催しの多くがなくなりました。

それでも、生徒たちは笑顔を絶やさず、新青森駅10周年のカウントダウンイベントや記念式典、ねぶた衣装を使ったマスクの制作などに携わってきました。

新年度は、4月から始まる「東北デスティネーションキャンペーン」にも協力し、活動の場を広くしていく予定です。



楢引さん(写真左)にメッセージを託す、右端から青山さん、木村さん、赤平さん



## 三内丸山遺跡 「大型掘立柱建物」8月まで補修工事

三内丸山遺跡のシンボルの一つで、「六本柱」の名で親しまれている大型掘立柱建物は、2月から改修工事が行われています。

大型掘立柱建物は、1994年に見つかった縄文中期のクリの柱と柱穴をもとに復元されました。柱穴は直径約2m、深さ約2m、穴の中心と中心の間隔が4.2mあり、直径約1mのクリの木柱4本とともに発見されました。

今回の工事の目的は、老朽化した建物の長寿命化対策です。現在は建物がすっぽりと、仮設足場とシート

で覆われ、様子を見ることはできません。工期は8月までを予定しており、6月下旬までは、仮設足場をシートで覆っているため大型掘立柱を見学できませんが、遺跡内の他の展示物や館内は通常どおり見学できます。

また、同遺跡では5月30日(日)まで、企画展「イミテーション・ワールド」が開かれています。縄文人の「模倣・まね」の様子を伝える、重要文化財4点を含む土器・土製品や石製品163点を展示しています。

## 青森県立美術館 「富野由悠季の世界」開幕

青森県立美術館で5月9日(日)まで、企画展「富野由悠季の世界」が開かれています。「機動戦士ガンダム」の総監督を務め、数々のアニメを世に送り出してきた足跡を、約3,000点の作品や資料で振り返ります。

同展は富山県美術館、福岡市美術館など、全国6美術館の共同企画として、2019年夏にスタートしました。青森県立美術館では2020年4月に開催予定でしたが、新型コロナウイルス感染症の拡大のため延期され、満を持して6会場の締めくくりの開催となりました。

富野は1941年、神奈川県小田原市に生まれ、手塚

治虫の「虫プロ」で「鉄腕アトム」の演出などを手がけました。1967年にフリーとなり、「海のトリトン」で監督デビューし、1979年には今も絶大な人気を誇る「機動戦士ガンダム」の制作に携わりました。

展示作品が多いことから、同館は時間に余裕を持って観覧するよう呼び掛けています。

観覧料は一般1,500円(WEBチケット料金1,300円)、高大生1,000円(同800円)、小中学生は以下無料です。延期前の前売券で入場する場合は、延期前のポスター1枚がプレゼントされます。



見学時間 9:00~17:00(入場は開館の30分前まで)  
 休館日 毎月第4月曜日(祝日の場合は翌日)  
 観覧料 一般410円(330円)/高校・大学生等200円(160円)/中学生以下無料  
 ※( )内は20名以上の団体料金  
 ※特別展は別料金。展示内容により変更する場合があります。  
 ※個人観覧者は、青森県立美術館のチケット表示で割引特典あり。  
 (詳しくは各施設のチケットカウンターまでお問合せください。)

お問合せ 〒038-0031 青森市三内丸山305  
 TEL.017-766-8282 / FAX.017-766-2365  
 URL https://sannaimariyama.pref.aomori.jp

三内丸山遺跡センター

縄文 芸術

青森県立美術館

開館時間 9:30~17:00(入場は16:30まで)  
 休館日 毎月第2、第4月曜日(祝日の場合は翌日)  
 ※企画展開催時、展示替等により変更する場合があります。  
 観覧料 一般510円(410円)/高校・大学生300円(240円)/小学生・中学生100円(80円)  
 ※( )内は20名以上の団体料金  
 ※企画展は別料金。展示内容により変更する場合があります。  
 ※個人観覧者は、三内丸山遺跡センターのチケット表示で割引特典あり。  
 (詳しくは各施設のチケットカウンターまでお問合せください。)

お問合せ 〒038-0021 青森市安田字近野185  
 TEL.017-783-3000 / FAX.017-783-5244  
 URL http://www.aomori-museum.jp

新青森駅 → 三内丸山遺跡センター: 循環バス「ねぶたん号」(東口)約20分・300円、タクシー(南口)約10分・1,000円前後、徒歩約30分  
 → 青森県立美術館: 「ねぶたん号」(東口)約10分・300円、タクシー(南口)約12分・1,200円前後、徒歩約40分

Facebook ページ Instagram アカウント

<ネット情報>  
 FacebookページとInstagramアカウントを開設し、独自の記事・情報を掲載しています。ご意見をお寄せ下さい。

下さい。また、PDF版を青森西高校ホームページ(<http://www.aomorinishi-h.asn.ed.jp/>)に掲載しています。いずれも、右側のQRコードからご覧いただけます。

☆このニュースレターは、青森大学社会学部・楢引研究室が企画・制作し、文責を負っています。お問い合わせ、ご意見等は下記連絡先へお願いします。  
 〒030-0943 青森市幸畑2-3-1 青森大学社会学部 楢引素夫 電話 017-738-2001 内線 731

FB ページ Instagram

青森西高校 ホームページ



日本地理学科会  
2020 年秋季学术大会资料



# 新幹線駅エリアの「メディア化」が持つ地理学的な可能性と課題（続報）

## －コロナ禍の影響と克服の試み－

A follow-up report on geographical potential and issues of recreating Shinkansen stations area as media; The influence of coronavirus pandemic and attempts to overcome

榊引 素夫（青森大）

Motoo KUSHIBIKI(Aomori Univ.)

キーワード：コロナ禍、新幹線、メディア、青森市、協働

Keywords : coronavirus pandemic, Shinkansen, media, Aomori city, collaboration

### 1.はじめに

郊外に立地する整備新幹線の駅は、アクセス面や都市計画上の課題を抱える例が少なくない（あおり新幹線研究連絡会・2020、榊引・2020）。このような状況を克服し、新幹線駅を新たな協働の拠り所とする営みを目指して、発表者は2019年度、東北新幹線・新青森駅と周辺を対象にニュースレター「はっしん！新青森」を創刊した。青森大学と県立青森西高校との高大連携事業と位置付け、青森学術文化振興財団の助成を得て、ニュースレターを10カ月に10回発行した。経過は2019年の日本地理学会・秋季学術大会で報告した。

同事業は2020年度も継続したが、コロナ禍が世界と国内を覆うに伴い、年度初めから事業の中断や活動の変更を余儀なくされた。本研究では、地元のネットワークづくりに及んだ影響と、その克服へ向けた取り組み、およびこれらの過程に対する考察について報告する。

### 2.2019年度から2020年度への経緯

2019年の秋から冬、ニュースレター発行は順調に推移した。2020年12月に東北新幹線全線開通・新青森開業10周年を控え、節目を祝いながら開業以来の足跡と地域課題を見直す機運が生まれる一方、ゴスペル・グループなど多様な市民もイベントに参加し始めていた。

一連の取り組みは、発表者が記事を書いているネットメディア・東洋経済オンラインでも紹介、記事がアクセスランキング入りするなどの反響を呼んだ（榊引、2019）。2019年11月には本事業に関心を持つ人々の交流の場として、地域連携DMO法人・信州いいやま観光局から講師を招き、青森西高校で「おもてなしフォーラム」を開催。青森西高校生や青森大学生、新青森駅長はじめJR東日本社員、青森県や国土交通省青森運輸支局の職員、住民など約70人が参加した。

しかし、2020年に入ってコロナ禍の影響が県内にも及んだ。2月には外国人観光客が減り始め、青森西高校の生徒たちが「おもてなし活動」の舞台としてきたクルーズ船の寄港中止が報じられるようになった。2月下旬から3月にかけて、ニュースレターに毎回、記事を掲載してきた三内丸山遺跡センターや青森県立美術館のイベントが中止になり、印刷が終わった紙面の修正と再印刷を余儀なくされたりもした。

3月下旬には県内初の感染者が確認され、ニュースレター配布に協力を得ていた施設が相次いで閉鎖されたため、完成していた4月号の配布を断念せざるを得なくなった。続く5月号は当初から制作を諦めた。

既報の通り、北陸新幹線の上越妙高駅（新潟県上越市）周辺でも、姉妹紙となるニュースレターの刊行構想が生まれ、現地セミナーや試作を経て刊行を目指していたが、コロナ禍が一因となり実現していない。

### 3.発信の継続と活動の再起動

ニュースレターはFacebookとInstagramで関連アカウントを運用してきた。また、青森西高校生は「おもてなし活動」の機会がなくなったことから、ぬぶた衣装を二次利用したマスクや感染拡大防止を呼びかけるポスターを制作していた。そこで、紙面作りは諦めたものの、これらの活動をネットの独自コンテンツとして、主にFacebookで報じ続けた。この間、記事の閲覧回数が前年の1.5～2倍に増加する現象もみられた。

やがて、緊急事態宣言が解除されたことから、青森西高校と新青森駅のコラボによる「開業10周年カウントダウン企画」がスタート、活動が徐々に再起動した。並行して、ニュースレターを6月に復活させた。

### 4.考察と展望

2020年7月30日現在、青森県内の感染確認者は31人と、人口に比較して必ずしも多いわけではない。しかし、全国的にみて特異な感染事例が相次いだ事情もあり、県民に大きな精神的負荷がかかっていることは間違いない。

一方で、「ウィズ・コロナ」時代に向けた模索も始まっている。例えば、青森県立美術館の「コレクション展2020-2：この世界と私のあいだ」は「ソーシャル・ディスタンス」が意識され、「物事の境界・空間」「これからの距離」をキーワードに構成されたという。さらに、インターネット上でギャラリートークを公開するなど、豊富なコレクションを今までとは異なる形で「社会にひらいていく」ことを志向しているという。

社会全般においてあらためて「ウィズ・コロナ」におけるDX（デジタル・トランスフォーメーション）の必要性が浮上している。上記の取り組みは、その一例と言えよう、とはいえ、人間社会のさまざまな動きや連携は、やはり「ネット」「デジタル」だけでは完結させようがない。空間的にも、社会的にも、さまざまな関係性を再構築していく上で、リアルとネットをつなぎ直す「起点」やアイテムが不可欠であろう。一方では、新たな観光や旅行、移動の在り方を根本的に作り直す営みが不可避である。

これらの状況を俯瞰すれば、新幹線駅やその周辺を対象とするニュースレターは、広域的なネットワークと地域、そしてリアルとネットを結び「二重の結節点」として、今まで以上の価値を持ち得ると考えられる。

◇参考文献：あおり新幹線研究連絡会（2019）「九州、北陸新幹線沿線の変化の検証に基づく、北海道新幹線の経済的、社会的活用法への提言」（青森学術文化振興財団・2018年度助成事業報告書）、▽榊引素夫（2020）「新幹線は地域をどう変えるのか」（古今書院）▽榊引素夫（2019）「郊外の『ポツンと新幹線駅』、集客をどう図るか」（東洋経済オンライン記事、2019年10月19日）

# 新幹線駅エリアの「メディア化」が持つ地理学的な可能性と課題 (続報)

—コロナ禍の影響と克服の試み—

櫛引素夫 (青森大)

キーワード: コロナ禍、新幹線、メディア、青森市、協働

P147

A follow-up report on geographical potential and issues of recreating hinkansen stations area as media; The influence of coronavirus pandemic and attempts to overcome

Motoo KUSHIBIKI (Aomori Univ.)

Keywords: coronavirus pandemic, Shinkansen, media, Aomori city, collaboration

日本地理学会・2020 年秋季学術大会ポスター発表



## 1. 新青森駅を拠点とした協働と発信「ニュースレター」刊行 1年半の経緯

報告者は 2019 年 6 月、東北新幹線・新青森駅と周辺を対象に、ニュースレター「はっしん! 新青森」を創刊した。郊外に立地する整備新幹線の駅はアクセス面や都市計画上の課題を抱える例が少ない(あおり新幹線研究連絡会・2020、櫛引・2020)。その結果、市民や旅行者に、新幹線駅へのネガティブな感情が定着し、シビックプライドを低下させたり、ビジネスを阻害したりする可能性がある。事業は、この状況を克服し、新幹線駅を新たな協働の拠り所とする試みである。

青森大学と県立青森西高校の高大連携事業と位置付け、青森学術文化振興財団の助成を得て、月 1 回のペースで刊行、経過を 2019 年の日本地理学会・秋季学術大会で報告した。

2020 年度も継続した事業は、Covid-19 (新型コロナウイルス感染症) が世界と国内を覆い、年度初めから休刊を余儀なくされた。それでも 6 月には復刊にこぎ着け、配布場所やネットワークが拡大、15 号まで刊行した。本発表では、順調な進展から一転、Covid-19 がもたらした影響、克服の取り組み、および一連の過程に関する考察を報告する。(写真左は 9 月 10 日号・リンクあり)

※太字・一部誌面画像がサイトにリンクしています。青森学術文化振興財団・令和 2 年度助成事業。

## 2. フォーラムに 70 人出席 多様な市民の参画進む

2019 年秋から冬、事業は順調に推移した。2020 年 12 月に東北新幹線全線開通・新青森開業 10 周年を控え、節目を祝いながら足跡と地域課題を見直す機運が生まれた。ゴスペル・グループなど多様な市民もイベントに参加し始めていた = 写真右上・上部記事。

一連の取り組みは、報告者が連載を執筆しているネットメディア・東洋経済オンライン記事 (QR コード) で紹介、アクセスランキング上位に入る反響があった (櫛引、2019)。

2019 年 11 月には交流の場として、地域連携 DMO 法人・信州いいやま観光局から講師を招き、青森西高校で「おもてなしフォーラム」= 写真右上・下部記事 = を開催した。青森西高校生や青森大学生、新青森駅長はじめ R 東日本社員、市民グループ「三内を美しく元気にする会」会員、青森県や国土交通省青森運輸支局の職員など約 70 人が出席した。

青森西高校は 2019 年度、青森県の「おもてなしアワード」で最高賞の県知事賞を受けた = 写真右下。



## 3. 感染拡大に伴い制作・配布が中断

2020 年に入って Covid-19 の影響が青森県内にも及んだ。2 月には外国人観光客が減り始め、青森西高校生が「おもてなし活動」の舞台としてきたクルーズ船の寄港中止が報じられるようになった。

ニュースレターに毎回、記事を掲載してきた三内丸山遺跡や青森県立美術館のイベントが中止になり、3 月号は印刷が終わった紙面の修正と再印刷を余儀なくされた。

3 月下旬に県内初の感染者が確認された後、ニュースレター配布に協力を得ていた施設が相次いで閉鎖されたため、完成していた 4 月号 = 写真右上 = の配布と、5 月号の作成を断念した。緊急事態宣言に伴い、新青森駅からは人影が消えた = 写真右中・5 月の様子。

既報の通り、北陸新幹線・上越妙高駅 (新潟県上越市) 周辺で 2019 年度、姉妹ニュースレター刊行を目指す動きがあり、現地セミナーを経てパイロット版 = 写真右下 = が完成していた。しかし、本報告時点で刊行に至っていない。



## 4. オンライン展開と緊急事態宣言解除、復刊



ニュースレターは Facebook と Instagram で関連アカウントを運用してきた。また、青森西高校生は「おもてなし活動」の機会がなくなり、ねぶた衣装を二次利用したマスクや感染拡大防止を呼びかけるポスターを制作していた。そこで、これらの活動をネットの独自コンテンツとして、主に Facebook で報じ続けた。この間、記事の閲覧回数が前年の 1.5~2 倍に増加する現象もみられた。

5 月 25 日の緊急事態宣言解除に伴い、同 29 日、青森西高校と新青森駅のコラボによる「開業 10 周年カウントダウン企画」= 写真左上 = がスタートした。ニュースレターは 6 月 10 日号から復活させ、高校生たちの活動や三内丸山遺跡、青森県立美術館の催しを報じ始めた。6 月下旬には七夕飾りの飾り付け = 写真左中、8 月上旬には青森ねぶた祭の「跳ね人」衣装での駅利用者歓迎 = 写真左下 = が行われ、開業 10 周年の 100 日前に当たる 8 月 26 日にはカウントダウン・カレンダーが設置された (最上部、写真左の記事)。静まりかえっていた駅構内は、夏休み期間中には、にぎわいが多少とも戻った。

## 5. 広域と地域、リアルとネット「二重の結節点」目指す

発表要旨執筆の 2020 年 7 月末時点では、青森県内の感染確認者は 31 人だったが、東北最大のクラスターが発生、10 月末現在で 200 人に迫る勢いとなっている。新青森駅開業 10 周年の行方も予断を許さない。

このような状況下、多様な模索も始まった。青森県立美術館が 7~9 月に開いた「コレクション展 2020-2: この世界と私のあいだ」は「ソーシャル・ディスタンス」が意識され、「物事の境界・空間」「これからの距離」をキーワードに構成された。インターネット上でギャラリートークを公開するなど、今までとは異なる形で「社会にひらいていく」ことを志向したといい、「Covid-19 時代」が突きつけた、DX (デジタル・トランスフォーメーション) に対応する側面もある。

とはいえ、人間社会のさまざまな動きや連携は、やはり「ネット」「デジタル」だけでは完結させようがない。空間的にも、社会的にも、さまざまな関係性を再構築していく上で、リアルとネットをつなぎ直す「起点」やアイテムが不可欠である。新たな観光や旅行、移動の在り方を根本的につくり直す営みが不可避となる中、新幹線駅やその周辺を対象とするニュースレターは、感染拡大対策を前提に、広域的なネットワークと地域、そしてリアルとネットを結ぶ「二重の結節点」として、今まで以上の価値を持ち得ると考えられる。

◇参考文献: あおり新幹線研究連絡会 (2019)「九州、北陸新幹線沿線の変化の検証に基づく、北海道新幹線の経済的、社会的活用への提言」(青森学術文化振興財団・2018 年度助成事業報告書)▽櫛引素夫 (2020)「新幹線は地域をどう変えるのか」(古今書院)▽櫛引素夫 (2019)「郊外の『ポツンと新幹線駅』、集客をどう図るか」(東洋経済オンライン記事、2019 年 10 月 19 日)



青森学術文化振興財団・令和2年度助成事業

「新青森駅開業10周年に向けた  
市民協働の場づくりの深化および  
情報発信の強化に関する研究・実践」事業

成果報告書

発行日 2021年2月28日

発行者 青森大学社会学部 櫛引 素夫 研究室  
〒030-0943

青森市幸畑2丁目3-1

電話 017-738-2001 (代表)

ファクス 738-0143

e-mail : kushibiki@aomori-u.ac.jp